

## 『現観荘嚴論』の註釈文献について

兵 藤 一 夫

はじめに

『現観荘嚴論』(Abhisamayālamkāra-nāma-prajñāpāramitopadeśaśāstra、通称 Abhisamayālamkāra, Mñon par rtogs pañi rgyan) は大品系の『般若経』、特に『二万五千頌』の内容を實踐(道)の観点からまとめて、それを頌(kārikā)の形にしたものであり、正式名称からも知られるように、『般若経』の Upadeśa (解説)の一つである。Bu ston によれば<sup>1)</sup>、Nāgārjuna の『中論』などは『般若経』の顯了相としての意味を解説しており、他方『現観荘嚴論』は隱密相としての意味を解説しているという。すなわち、『現観荘嚴論』は『般若経』の隠された意味を明らかにしたものであるというのである。そのことの当否はともかくとして、『現観荘嚴論』の内容が同じ『般若経』を所依とした中観思想のそれとは趣を異にしていることは事実である。

ところで、この『現観荘嚴論』は極めて簡潔な内容のものであり、註釈に依らなければ理解が困難である。そのため多くの註釈書が作られているが、それらを含めて『現観荘嚴論』に関連した文献は漢訳としてはまったく伝えられず、チベット訳と幾つかの Skt 原典が残されているにすぎない。しかし、チベット仏教においてこの論書は Maitreya (弥勒) の五部論の随一として重要な位置を占め、確固とした伝統が相続したため、チベットの学僧たちによって多くの註釈書が著わされている<sup>2)</sup>。

『現観荘嚴論』に関しては、既に E. Obermiller, 荻原雲来、E. Conze などのすぐれた先学たちの諸業績があり<sup>3)</sup>、それらによってこの論書の重要性や内

容・性格などがかなりの部分明らかにされている。しかし未だ多くの点に関して不明確なところもある。たとえば、きわめて重要な問題であるが、『現觀莊嚴論』の仏教思想史上、特にインド仏教思想史上の位置づけに関するものもその一つである。従来の研究は Haribhadra の註釈を中心としたものであったため、この論書そのものも彼の思想史上の位置にオーバーラップされる傾向が強かったように思われる。このことは、主として Haribhadra の註釈に依拠するチベットの伝統説に対しても当てはまる。確かに『現觀莊嚴論』における Haribhadra の存在は大きく、それを無視することはできないが、『現觀莊嚴論』のインド仏教思想史上の位置づけやその思想的展開を考える場合には、註釈文献全体を考慮する必要がある<sup>4)</sup>。この思想史上の問題とも関係するが、『現觀莊嚴論』の著者についても現在のところ十分に解明されているとは言えない。一切の伝承はこの論書を Maitreya に帰することで一致している。(特にチベットでは前述の如くこれを Maitreya の五部論の随一としている。)<sup>5)</sup> 現在のところではこの伝承を覆すほどの有効な論証はなされていないので、留保しながらも一般にはそれがそのまま受け入れられている。しかし、この伝承は疑問点が多く<sup>6)</sup>、今後の研究が待たれるところである。

以上のように、『現觀莊嚴論』の研究には多くの註釈文献の比較研究が必要であると思われる。そこで筆者はそのための最も基礎的な作業の一つとして、インド撰述の註釈文献と見られるものの対照表を作製してみた。その際、これら諸文献は漢訳としてはまったく伝えられず、しかも現存の Skt 原典も少ないため、対照の中心をチベット訳に置いた。そして対照される項目としては、『現觀莊嚴論』のいわゆる「八支七十義」を採用した。それらはこの論書の構造を最も良く示す、一種の内容目次の如きものと考えられるからである。

なお、この対照表は西蔵大蔵經勘同目録の丹殊爾般若部の編纂作業の過程において作製したものであるが、今回、このような形でまとめることができたの

は、大谷大学真宗総合研究所における西藏蔵外文献研究班（小川一乗教授、片野道雄助教授、小谷信千代専任講師、ツルティム・ケサン講師）の一員に加えられ、御指導御助言を得たおかげである。

### 1. インド撰述の註釈文献

『現観莊嚴論』は偈頌の形にまとめられた非常に簡潔な内容のものであるから、註釈がなければ理解が困難である。そのためか、インドにおいて多くの註釈が書かれている。チベットの伝承によれば、チベット大蔵経丹殊爾所収の、『現観莊嚴論』の註釈は21種である。このことに関しては、既にE. Obermillerが詳しく紹介しているので<sup>7)</sup>、それを参照しながら以下に21の註釈を列挙しておく。

#### I. 『般若経』と『現観莊嚴論』の両者を併せて註釈したもの

##### A) 『二万五千頌般若』と関連するもの

- (1) Āryapañcaviṃśatisāhasrikāprajñāpāramitopadeśaśāstrābhisamayālaṃkāravṛtti (Pek. No. 5185, Toh. No. 3787)

A. Ārya Vimuktisena

Tr. Go mi ḥchi med (Amaragomin), Blo ldan śes rab.

[Skt] C. Pensa ed., “L’Abhisamayālaṃkāravṛtti di Ārya Vimuktisena, Primo Abhisamaya” (SOR XXXVII, Roma, 1967)

- (2) Āryapañcaviṃśatisāhasrikāprajñāpāramitopadeśaśāstrābhisamayālaṃkāraḥkārikāvartikā (Pek. No. 5186, Toh. No. 3788)

A. [Bhadanta] Vimuktisena

Tr. Śāntibhadra, Śākya ḥod

- (3) Pañcaviṃśatisāhasrikāprajñāpāramitā<sup>8)</sup> (Pek. No.5188, Toh. No.3790)

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

A. Haribhadra に帰せられている

Tr. Śāntibhadra, Tshul khriims rgyal ba

[Skt] (i) N. Dutt ed., “Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā” (GOS No.28, London, 1934) (これは第一章のみ) (ii) T. Kimura ed., “Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā” (II-1), (II-2), (II-3), (II-4), (II-5) (大正大学研究紀要 Nos.56-58, 61, 64, 1971-1979) (これは第2章の一部) (iii) E. Conze ed., “The Buddha’s lakṣaṇas in the Prajñāpāramitā” (JOI XIV, Baroda, 1965) (これは第8章の一部 P, Ca. 279a<sup>3</sup>-281b<sup>4</sup>, D, Ca. 241b<sup>5</sup>-244a<sup>1</sup>) (iv) E. Conze & Sh. Iida ed. “Maitreya’s Question in the Prajñāpāramitā” (Mélanges d’Indianisme à la mémoire de Louis Renou, Paris, 1968) (これは第8章の一部 P, Ca. 369a<sup>3</sup>-380a<sup>2</sup>, D, Ca. 314a<sup>5</sup>-323a<sup>2</sup>)

(参考)

[漢] 『大般若波羅蜜多經 (第二會)』 玄奘訳 (大正 No.220)

『放光般若經』 無羅叉訳 (大正 No.221)

『光讚經』 竺法護訳 (大正 No.222)

『摩訶般若波羅蜜經』 鳩摩羅什訳 (大正 No.223)

(4) Abhisamayālaṃkārikāvṛtti Śuddhamatī (Pek. No.5199, Toh. No.3801)

A. Ratnākaraśānti

Tr. Subhūtiśānti, Śākya blo gros, Dge baḥi blo gros

Rev. Śāntibhadra, Hgos lha btsas

B) 『十万頌般若』と関連するもの

(5) [Śatasāhasrikāvivarāṇa] (Pek. No.5203, Toh. No.3802)

A. Dharmasīrī



Tr. 不明

C) 『八千頌般若』と関連するもの

(6) Āryaṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāvyaḥyabhisamayālaṃkāraloka

(Pek. No.5189, Toh. No.3791)

A. Haribhadra

Tr. Subhāṣita, Rin chen bzañ po

Rev. Dipaṃkaraśrījñāna, Rin chen bzañ po; Dhirapāla, Blo ldan  
śes rab

[Skt] (i) G. Tucci ed., “Abhisamayālaṃkāraloka” (GOS No. 62, Baroda, 1932) (ii) U. Wogihara ed., “Abhisamayālaṃkāraloka Prajñāpāramitāvyaḥyā” (Tokyo, 1932, rep. 1973) (iii) P.L. Vaidya ed., “Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā with Haribhadra’s Commentary called Āloka” (BST No.4, Darbhanga, 1960)

(7) Āryaṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāpañjikā Sārottamā (Pek. No.5200,

Toh. No.3803)

A. Ratnākaraśānti

Tr. Subhūtiśānti, Śākya blo gros

[Skt] P.S. Jaini ed., “Sāratamā, a Pañjikā on the Aṣṭasāhasrikā-prajñāpāramitāsūtra” (TSWS No.13, Patna, 1979)

(8) Āryaṣṭasāhasrikāprajñāpāramitāvṛtti Marmakaumudī (Pek. No.5202,

Toh. No.3805)

A. Abhayākaragupta

Tr. Abhayākaragupta, Śes rab dpal

D) 『宝徳蔵般若』と関連するもの

(9) Bhagavadratnaguṇasaṃcayagāthāpañjikā (Pek. No.5190,

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

Toh. No.3798)

A. Buddhaśrījñāna

Tr. Vidyākaraśiṃha, Dpal brtsegs

(10) Saṃcayagāthāpañjikā (Pek. No.5196, Toh. No.3798)

A. Buddhaśrījñāna

Tr. Vidyākaraśiṃha, Dpal brtsegs

(11) Prajñāpāramitākōśatāla (Pek. No.5204, Toh. No.3806)

A. Dharmāśrī

Tr. Dharmāśrī, Ba reg

E) 『十万頌般若』、『二万五千頌般若』、『一万八千頌般若』と関連するもの

(12) [Prajñāpāramitāmātrkāśatasāhasrikābṛhacchāsanapañcaviṃśatisāhasrikāmadyaśāsanāṣṭādaśasāhasrikālaghuśāsanāṣṭasamānārthaśāsanā]  
(Pek. No.5187, Toh. No.3789)

A. Smṛtījñānakīrti

Tr. 不明

II. 『現觀莊嚴論』のみを註釈したもの

(13) Abhisamayālamkāra-nāma-prajñāpāramitopadeśaśāstravṛtti (Pek. No.5191, Toh. No.3793)

A. Haribhadra

Tr. Vidyākaraśiṃha, Dpal brtsegs

Rev. Amaragomin, Blo ldan śes rab

(14) Abhisamayālamkāra-nāma-prajñāpāramitopadeśaśāstravṛtti-durbodhāloka (Pek. No.5192, Toh. No.3794)

A. Dharmakīrtiśrī

- Tr. Dīpaṃkaraśrījñāna, Rin chen bzañ po  
(これは(13)に対する復註である)
- (15) Abhisamayālamkāravṛttipiṇḍārtha (Pek. No.5193, Toh. No.3795)  
A. Prajñākaramati  
Tr. Sumatikīrti, Blo ldan śes rab  
(これは(13)に対する復註である)
- (16) Abhisamayālamkārikāprajñāpāramitopadeśaśāstratikā Prasphu-  
ṭapadā (Pek. No.5194, Toh. No.3796)  
A. Dharmamitra  
Tr. Abhyuktaka Tāraśrīmitra, Chos kyi śes rab  
(これは(13)に対する復註である)
- (17) Prajñāpāramitāpiṇḍārtha (Pek. No.5195, Toh. No.3797)  
A. Kumāraśrībhadrā  
Tr. Kumāraśrībhadrā, Bkra śis rgyal mtshan
- (18) Abhisamayālamkāravṛtti Kīrtikāla (Pek. No.5197, Toh. No.3799)  
A. Ratnakīrti  
Tr. Ratnakīrti, Yon tan ḥbar
- (19) Abhisamayālamkārabhagavatīprajñāpāramitopadeśaśāstravṛtti Pra-  
jñāpradīpāvali (Pek. No.5198, Toh. No.3800)  
A. Buddhaśrījñāna  
Tr. Buddhaśrījñāna, Byams paḥi dpal
- (20) Prajñāpāramitāpiṇḍārthapradīpa (Pek. No.5201, Toh. No.3804)  
A. Dīpaṃkaraśrījñāna  
Tr. Dīpaṃkaraśrījñāna, Tshul khriṃs rgyal ba
- (21) Munimatālamkāra<sup>9)</sup> (Pek. No.5299, Toh. No.3903)

『現観莊嚴論』の註釈文献について

A. Abhayākaragupta

Tr. Abhayākaragupta, Gsal ba grags

Rev. Señ ge rgyal mtshan, Rdo rje rgyal mtshan, Blo gros brtan  
pa, Dog śiñ dpon po, Bde ba chos kyi bzañ po

Haribhadra によれば、Asaṅga と Vasubandhu も註釈を書いたということであるが、それらは現存せず、さらに Haribhadra の外にはそれらについて言及していないようであるから<sup>10)</sup>、『現観莊嚴論』の著者と見なされている Maitreya との関わりの中で出て来た伝承ではないかと思われる。

さて以上21種の註釈の中で<sup>11)</sup>、Haribhadra のものが最も重要であることは言を俟たないが、『現観莊嚴論』の思想全体を考える上では、他の諸註釈も十分に考慮されねばならない。それらの中で、(1)の Ārya Vimuktisena の註釈は Haribhadra 自身も頻繁に引用し、しかも現存する中の最も古い註釈であることなどから重要である。また(4)(7)の Ratnākaraśānti や(8)の Abhayākaragupta の註釈は最後代（11世紀）のものであるが、Haribhadra とは幾分異った立場であり、『現観莊嚴論』の思想を考える上でその意義は大きい。

## 2. 八支七十義

『現観莊嚴論』は全体が273偈から成っている。その中最初の部分（第3偈～第17偈）によってこの論の内容次第が項目として列挙されている。それによると全体は八つの事柄（これがそのまま章名とされる）に区分され、さらにそれぞれに関して内容の項目が列挙され、その総計が七十となっている。これがいわゆる七十義である。この八支七十義について、先ず、八つの事柄とは、

- |                           |     |
|---------------------------|-----|
| 1. Sarvakarajñatā (一切相智性) | 73偈 |
| 2. Mārgajñatā (道智性)       | 31偈 |
| 3. Sarvajñatā (一切智性)      | 16偈 |

4. Sarvākārabhisambodha (一切相現等覺)	63偈
5. Mūrdhabhisamaya (頂現觀)	42偈
6. Anupūrvābhisamaya (次第現觀)	1 偈
7. Ekakṣaṇābhisamaya (一刹那現觀)	5 偈
8. Dharmakāya (法身)	40偈
Arthasaṃgraha (撰義)	2 偈

である。Bu ston によれば、<sup>12)</sup> 1～3 によって悟入の対象である三智性が説かれ、4～7 によって前述の智性を實現する行(道)が説かれ、8 によって道の結果としての法身が説かれる。

次に七十義についてであるが、これらは前述の八つの事柄の詳説という形で八つのそれぞれに関して列挙されたものである。『現觀莊嚴論』には七十という数は直接出てこないが、各項目を合計すれば七十となる。この中、第8の法身に関する項目に対しては異説が存する。<sup>13)</sup> 法身に関する項目(義)は四つであることは確定しているが、Ārya, Bhadanta の両 Vimuktisena や Ratnākaraśānti などは、それらを自性身(Svābhāvika-kāya)・受用身(Saṃbhogika-)・變化身(Nairmāṇika-)の三身とその作用(Kāritra)との四とする。これに対して、Haribhadra は上記の自性身から〔智〕法身([Jñāna]dharma-kāya)を別立して四身とし、この四身を法身に関する四項目に該当させるのである。その際、法身の作用は智法身の項目に含められることになる。後に、『現觀莊嚴論』の概要書としてチベットにおいて独自の展開を見せる、いわゆる“Don bdun cu (七十義)”文献では、この Haribhadra の見解に従ったものとなっている。以下に掲げる対照表では、一応 Haribhadra の見解に従うことにするが、「法身の作用」という項目も附加しておく。

## 略号

BB : Bibliotheca Buddhica

BST : Buddhist Sanskrit Texts

GOS : Gaekwad's Oriental Series

JOI : Journal of the Oriental Institute (Baroada)

SOR : Serie Orientale Roma

ŚS : Śatapiṭaka Series

TSWS : Tibetan Sanskrit Works Series

## 註記

- 1) Bu ston の『仏教史 (Chos ḥbyuñ)』(ラサ版 Ya. 19b<sup>2-7</sup>, E. Obermiller 英訳本 pp.50-51) 参照。
- 2) チベット撰述の註釈書については、Lokesh Candra ed. “Materials for a History of Tibetan Literature, Pt.3” (ŚS No.28) pp.528-534 を参照のこと。E. Conze, “The Prajñāpāramitā Literature”, 2nd ed. (Tokyo, 1978) pp.112-120 にも相当詳しい紹介がある。また、チベットにおける『現觀莊嚴論』の伝統に関しては、Tshul khriṃs skal bzañ “Byams chos bskyar shib drañ ñes mdses rgyan” (New Delhi, 1984) pp.281-296 参照。
- 3) E. Conze, *op. cit.* pp.39-40, 50-51 を参照のこと。
- 4) 中でも、Ārya Vimuktisena, Bhadanta Vimuktisena, Ratnakaraśānti, Abhayākara-gupta などの註釈は重要である。最近、Ārya Vimuktisena と Ratnakaraśānti の註釈の Skt 原典が校訂出版されたのを機に、Haribhadra 以外の註釈も注目されるようになってきた。
- 5) チベットの伝承によれば、Maitreya の五論は『大乘莊嚴經論』、『中辺分別論』、『法性分別論』、『究竟一乘宝性論』、『現觀莊嚴論』であり、いずれも Asaṅga が Maitreya から教わって伝えたとされている。しかし、この中の後の二つは Maitreya-Asaṅga の著作とすることが疑われている。『究竟一乘宝性論』に関しては、中村瑞隆「梵漢対照究竟一乘宝性論研究」(Tokyo, 1961) pp.58-61 参照。『現觀莊嚴論』に関しては註6)を参照のこと。
- 6) 真野龍海「現觀莊嚴論の研究」(Tokyo, 1972) pp.9-12 参照。『現觀莊嚴論』を Maitreya に帰する伝承の中で最初のもは、Haribhadra の大小の二註釈であろう。両註釈の最初に、この論が Maitreya によって作られ、Asaṅga, Vasubandhu, Ārya Vimuktisena, Bhadanta Vimuktisena によって順次に註釈が書かれたことが述べら

れている。しかし、現存の註釈の中の最古のものである Ārya Vimuktisena の註釈とそれに続く Bhadanta Vimuktisena の註釈は、著者たる Maitreya に関して言及していない。また、チベット訳では Maitreya の五論の中の他の四論はいずれも Maitreya の作と述べられているのと比較して、『現観莊嚴論』(Karika) (Pek. No.5184, Toh. No.3786) のコロホンには作者への言及はない。また、Th. Stcherbatsky & E. Obermiller ed. “Abhisamayālamkāraprajñāpāramitopadeśaśāstra” (BB No.23, 1929, rep. Tokyo, 1977) の Skt 原典のコロホンには作者が Maitreyanātha と述べられているが、これは『現観莊嚴論』に基づいて章分けされた『二万五千頌般若』(チベット訳では丹殊爾所収の『二万五千頌般若』Pek. No.5188, Toh. No.3790 に相当) のネパール写本の経文の前に書かれたものを底本としているため相当後代のものではないかと思われる。したがって現在のところ、『現観莊嚴論』の成立した時期は確定できないが、これが Maitreya に帰せられるようになったのは Haribhadra の時代ではないかと思われる。

- 7) E. Obermiller “The Doctrine of Prajñāpāramitā as exposed in the Abhisamayālamkāra of Maitreya” (Acta Orientalia XI, Leiden, 1933) pp.9–11 参照。
- 8) これは『現観莊嚴論』の項目によって本文が区分された『二万五千頌般若』であり、丹殊爾所収の『二万五千頌般若』や漢訳のそれと比較して一種の Revised Version と見なすことができる。現存のネパールで発見された Skt 写本もすべて、『現観莊嚴論』の項目によって本文が区分された、この Revised Version である。『現観莊嚴論』に基づく区分名が入れていることから、このテキストはチベットでは丹殊爾に収められ、その作者は Haribhadra に帰せられている。しかしこの伝承は疑問である。このことについては、拙論「Bstan hgyur 所収の『二万五千頌般若』についての二・三の問題——特に『現観莊嚴論』との関連において——」(日本西蔵学会々報 No.30) を参照されたい。また、ここに参考として掲げた『二万五千頌般若』に相当する諸漢訳は、この(3)のテキストと厳密には一致しない。
- 9) これは西蔵大蔵経の中観部に収められている。書名からは直接『現観莊嚴論』の註釈とは見なし難いが、内容の上から(特に最後の3章が)註釈とされる。
- 10) Ratnakaraśānti は著者 Maitreya には言及するが、Asaṅga, Vasubandhu などについては一言も述べていない。
- 11) すでに E. Obermiller (*op. cit.* pp.10–11) が指摘しているように、Tsoñ kha pa は Gser phreñ (Pek. No.6150, Ja. 6b<sup>6</sup>–7a<sup>8</sup>) の中で、(5), (11), (12), (20) の4つの註釈書の著者の伝承に疑問を呈し、これらがインド撰述たることを否定している。また、(11) の註釈書は『宝徳藏般若』の経文を何も引用したり註釈したりしていないが、内容的にそれと関連づけられるとしている。

『現観莊嚴論』の註釈文献について

12) Bu ston, *op. cit.* (ラサ版 Ya. 19b<sup>6-7</sup>, E. Obermiller 英訳本 p.51) 参照。

13) これは第八章法身の項目を説く I—17偈

svābhāvikaḥ sasāmbhogo nairmāṇiko 'paras tathā /  
dharmakāyaḥ sakāritraś caturdhā samudīritāḥ //

を如何に理解するかの問題に帰着する。Haribhadra の両註釈からも知られるように、当時の伝統説は三身説であり、Haribhadra の四身説はそれに対する新説であったようである。彼の四身説の根拠の一つは、Ⅷ—2～6 偈が無戲論智を説いているということである。ところで、Haribhadra よりもずっと後代の註釈家で、三身説の立場に立つ Ratnakaraśānti と Abhayakaragupta は前述の I—17偈を次の如く伝えている。

svābhāvikaḥ sasāmbhogo nairmāṇika iti tridhā /  
dharmakāyaḥ sakāritraś caturdhā samudīritāḥ //

(P.S. Jaini ed. “Śāratamā” p.172)

この相違がどういう経緯によるのかなど、検討すべきことは多い。これらを含めて、『現観莊嚴論』の法身説については別の機会にさらに詳細に検討を加えてみたい。なお、Haribhadra の法身説に関しては天野宏英「ハリバドラの仏身論」(宗教研究No. 179)を参照されたい。



## 『現観莊嚴論』諸註釈の 八支七十義諸版頁対照表

- 記 1) 21種の註釈書の中、(11)、(17)、(20)の3つは短い著作であるから対照表は作成しない。また(21)は八支七十義の区分に適應しないため作成しない。
- 2) 当該対照表の作成に際しては、ツルティム・ケサン氏から多大の御協力を得た。

『現觀莊嚴論』の八支七十義<sup>1)</sup>

Ser. No.	No.	Skt	Tib	Kārika No. <sup>2)</sup>
I		Sarvākarañāta (一切相智性)	Rnam pa thams cad mkhyen pa ñid	(73)
	0	Piñḍārtha (撰義)	Bsdus paḥi don	1-17 <sup>3)</sup>
1	1	Cittotpāda (発心)	Sems bskyed pa	18-20
2	2	Avavāda (教誡)	Gdams pa	21-24
3	3	Nirvedhabhāgīya (順決擇分)	Ñes par ḥbyed cha mthun pa	25-36
4	4	Pratipattiyādhāra (行依)	Sgrub paḥi rten	37-39
5	5	Ālambana (所縁)	Dmigs pa	40-41
6	6	Uddeśa (所期)	Ched du bya ba	42
7	7	Sannāhapratipatti (被鎧行)	Go choḥi sgrub pa	43
8	8	Prasthānapratipatti (発趣行)	Ḥjug paḥi sgrub pa	44-45
9	9	Sambhārapratipatti (資糧行)	Tshogs kyi sgrub pa	46-71
10	10	Niryānapratipatti (出離行)	Ñesparḥbyuñ baḥisgrubpa	72-73
II		Margajānāta (道智性)	Lam śes pa ñid	(31)
11	1	Ādharādi <sup>4)</sup> (依など)	Rten la sogs pa	1
12	2	Śrāvakamārga (声聞道)	Ñan thos kyi lam	2-5
13	3	Pratyekabuddhamārga (独覚道)	Rañ sañs rgyas kyi lam	6-10
14	4	Darśanamārga (見道)	Mthoñ baḥi lam	11-16
15	5	Kāritra (行)	Byed pa	17
16	6	Adhimuktīmanaskāra (勝解作意)	Mos pa yid la byed pa	18-19
17	7	Stutistobhapraśamsā (讚嘆称揚 賞讚)	Bstod pa dañ bkur ba dañ bsñags pa	20
18	8	Pariñāmanamanaskāra (廻向作意)	Yoñs su bsño baḥi yid la byed pa	21-23
19	9	Anumodanamamanaskāra (随喜作 意)	Rjes su yi rañ ba yid la byed pa	24
20	10	Abhinirhāra (離行)	Mñon par sgrub pa	25
21	11	Atyantaviśuddhi (畢竟清浄)	Śin tu rnam par dag pa	26-31
III		Sarvajñāta (一切智性)	Thams cad śes pa ñid	(16)
22	1	Samsārāpratiṣṭhāna <sup>5)</sup> (不住輪 廻)	Ḥkhor ba la mi gnas pa	} 1
23	2	Nirvāṇāpratiṣṭhāna (不住涅槃)	Mya ñan las ḥdas pa la mi gnas pa	

24	3	[Anupāyadūṛibhāva] (無方便 によって遠いこと)	Thabs ma yin pas ni rin ba ñid	}	2
25	4	[Upāyadūṛibhāva] (方便に よって遠くないこと)	Thabs kyis ni mi rin ba ñid		
26	5	Vipakṣa (所対治)	Mi mthun paḥi phyogs pa		3
27	6	Pratipakṣa (能対治)	Gñen poḥi phyogs pa		4-7
28	7	Prayoga (加行)	Sbyor ba		8-10ab
29	8	Samatā (平等性)	Mñam pa ñid		10cd
30	9	Darśanamārga (見道) (I ~ III章のまとめ)	Mthoñ baḥi lam		11-15 16
IV		Sarvākārabhisambodha (一切相 現等覚)	Rnam pa thams cad mñon par rdsogs par rtogs pa		(63)
31	1	Ākāra (行相)	Rnam pa		1-5
32	2	Prayoga (加行)	Sbyor ba		6-11
33	3	Guṇa (功德)	Yon tan		12ab
34	4	Doṣa (過失)	Skyon		12cd
35	5	Lakṣaṇa (相)	Mtshan ñid		13-31
36	6	Mokṣabhāgīya (順解脱分)	Thar baḥi cha dañ mthun pa		32-34
37	7	Nirvedhabhāgīya (順決擇分)	Nes par ḥbyed paḥi cha dañ mthun pa		35-37
38	8	Avaivartikabodhisattvasaṅgha (不退菩薩衆)	Phyir mi ldog paḥi byaṅ chub sems dpaḥi dge ḥdun		38-59
39	9	Samsāranirvāṇasamatā (輪廻涅 槃平等性)	Ḥkhor dañ mya ñan ḥdas pa mñam pa ñid		60
40	10	Buddhakṣetraviśuddhi (佛国土 清浄)	Saṅs rgyas kyi shiñ rnam par dag pa		61
41	11	Upāyakauśalya (方便善巧)	Thabs la mkhas pa		62-63
V		Mūrdhabhisamaya (頂現観)	Rtse mo mñon par rtogs pa		(42)
42	1	Līṅga <sup>(6)</sup> (微相)	Rtags		1
43	2	Vivṛddhi (増大)	Rnam par ḥphel ba		2
44	3	Nirūḍhi (堅固)	Nes par brtan pa		3
45	4	Cittasaṁsthiti (心安住)	Sems kun du gnas pa		4
46	5	Darśanamārga (見道)	Mthoñ baḥi lam		5-23

47	6	Bhāvanāmārga (修道)	Sgom paḥi lam	24-36
48	7	Ānantaryasamādhi (無間三昧)	Bar chad med paḥi tiñ ñe ḥdsin	37-39c <sup>7)</sup>
49	8	Vipratipatti (誤認)	Log par rtog pa	39d-42
VI		Anupūrvābhisamaya (次第現觀)	Mthar gyis paḥi mñon par rtogs pa	(1)
50	1	Dāna-pāramitā (施波羅密)	Sbyin paḥi pha rol tu phyin pa	} 1
51	2	Śīla — (戒 ♪ )	Tshul khirms kyi —	
52	3	Kṣānti — (忍 ♪ )	Bzod paḥi —	
53	4	Vīrya — (精進 ♪ )	Brtson ḥgrus kyi —	
54	5	Dhyāna — (定 ♪ )	Bsam gtan gyi —	
55	6	Prajña — (般若 ♪ )	Śes rab kyi —	
56	7	Buddhānusr̥ṭi (佛隨念)	Saṅs rgyas rjes su dran pa	
57	8	Dharma — (法 ♪ )	Chos —	
58	9	Saṅgha — (僧 ♪ )	Dge ḥdun —	
59	10	Śīla — (戒 ♪ )	Tshul khirms —	
60	11	Tyāga — (捨 ♪ )	Gton ba —	
61	12	Devatā — (天 ♪ )	Lha —	
62	13	Sarvadharmābhāvasvabhāva (一切法無自性)	Chos thams cad dños po med paḥi ño bo ñid	
VII		Ekakṣaṇābhisamaya (一剎那現觀)	Skad cig ma gcig gis mñon par rtogs pa	(5)
63	1	Avipāka (不異熟)	Rnam par smin pa ma yin pa	1-2
64	2	Vipāka (異熟)	Rnam par smin pa	3
65	3	Alakṣaṇa (無相)	Mtshan ñid med pa	4
66	4	Advaya (不二)	Gñis su med pa	5
VIII		Dharmakāya (法身)	Chos kyi sku	(40)
67	1	Svābhāvikakāya (自性身)	Ño bo ñid kyi sku	1
68	2	[Jñāna-] Dharmakāya <sup>8)</sup> ([智] 法身)	[Ye śes] Chos kyi sku	2-11
69	3	Sāmbhogikakāya (受用身)	Loṅs sbyod rdsogs paḥi sku	12-32
70	4	Nairmāṇikakāya (變化身)	Sprul paḥi sku	33

	5	Karitra (業用)	Mdsad pa	34-40
AS		[Arthasamgraha] (撰義)	Don bsdus pa <sup>9)</sup>	(2)

## 〔註記〕

- 1) この表は Haribhadra の二つの註釈 (Āloka と Vṛtti) に基づいて作製した。〔 〕は筆者が補ったものである。
- 2) Kārikā No. は Th. Stcherbatsky & E. Obermiller ed. のテキストを使用した。
- 3) 最初の 2 偈は industry verse である。
- 4) Ārya Vimuktisena と Ratnākaraśānti の註釈では、No.11 は Mog mog por byed pa la sogs pa となっている。
- 5) No.22 と No.23 は一まとめに註釈されている。
- 6) Nos.42-45 は順次に順決擇分の煥などの四善根に相当する。
- 7) Haribhadra の小註 (Vṛtti) によれば、No.48 は Kārikā Nos.37-39、No.49 は Kārikā No.40-42 となっている。
- 8) Ārya Vimuktisena や Ratnākaraśānti などは三身説をとっているので Jñānadharmakāya は項目として立てずにその代りに Kāritra が No.70 の項目となる。
- 9) この名称は Prajñāpradīpāvali (Pek. No.5198) に従う。

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

(1) Abhisamayālamkāravṛtti

Pek. No.5185 (Ka. 15b<sup>3</sup>-249a<sup>7</sup>), Toh. No.3787 (Ka. 14b<sup>1</sup>-212a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt*	Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt*	
I		0	<sup>ka</sup> -18b <sup>1</sup>	<sup>ka</sup> -17a <sup>1</sup>	-14	IV		31	1	-150b <sup>5</sup>	-128a <sup>1</sup>	
		1	-31a <sup>5</sup>	-27b <sup>3</sup>	-31 <sup>9</sup>			32	2	-154b <sup>2</sup>	-131a <sup>3</sup>	
		2	-48b <sup>3</sup>	-43a <sup>1</sup>	-53 <sup>6</sup>			33	3	-156a <sup>3</sup>	-132a <sup>6</sup>	
		3	-65a <sup>8</sup>	-57a <sup>3</sup>	-72			34	4	-159a <sup>8</sup>	-134b <sup>7</sup>	
		4	-69a <sup>5</sup>	-60b <sup>1</sup>	-78 <sup>7</sup>			35	5	-170b <sup>8</sup>	-141a <sup>2</sup>	
		5	-70b <sup>7</sup>	-62a <sup>1</sup>	-80 <sup>13</sup>			36	6	-172b <sup>1</sup>	-145a <sup>6</sup>	
		6	-74a <sup>2</sup>	-64b <sup>3</sup>	-84 <sup>20</sup>			37	7	-174b <sup>1</sup>	-147a <sup>2</sup>	
		7	-75a <sup>6</sup>	-65b <sup>1</sup>	-86 <sup>13</sup>			38	8	-188b <sup>1</sup>	-159a <sup>4</sup>	
		8	-78b <sup>7</sup>	-68b <sup>5</sup>	-90 <sup>18</sup>			39	9	-189b <sup>6</sup>	-160a <sup>6</sup>	
		9	-94a <sup>7</sup>	-81b <sup>6</sup>	-111 <sup>8</sup>			40	10	-191a <sup>3</sup>	-161b <sup>1</sup>	
	10	-107b <sup>1</sup>	-92b <sup>7</sup>	-126		41	11	-193a <sup>2</sup>	-163a <sup>4</sup>			
II		11	-108b <sup>1</sup>	-93b <sup>1</sup>		V		42	1	-194b <sup>2</sup>	-164b <sup>2</sup>	
		12	-110b <sup>5</sup>	-95b <sup>4</sup>				43	2	-197a <sup>5</sup>	-167a <sup>1</sup>	
		13	-113b <sup>2</sup>	-98a <sup>5</sup>				44	3	-197b <sup>6</sup>	-167b <sup>1</sup>	
		14	-116a <sup>3</sup>	-100b <sup>1</sup>				45	4	-198a <sup>1</sup>	-167b <sup>6</sup>	
		15	-116b <sup>6</sup>	-101a <sup>2</sup>				46	5	-205b <sup>7</sup>	-174b <sup>4</sup>	
		16	-120b <sup>2</sup>	-104a <sup>1</sup>				47	6	-213b <sup>1</sup>	-181a <sup>6</sup>	
		17	-123a <sup>1</sup>	-106a <sup>2</sup>				48	7	-214b <sup>1</sup>	-182a <sup>2</sup>	
		18	-125a <sup>5</sup>	-107b <sup>3</sup>				49	8	-221a <sup>7</sup>	-187b <sup>4</sup>	
		19	-125b <sup>2</sup>	-107b <sup>7</sup>		VI	50~55	1~6	-222a <sup>4</sup>	-188a <sup>6</sup>		
		20	-126a <sup>6</sup>	-108b <sup>2</sup>			56~61	7~12	-223a <sup>6</sup>	-189a <sup>5</sup>		
		21	-131b <sup>5</sup>	-113a <sup>1</sup>			62	13	-223b <sup>8</sup>	-189b <sup>6</sup>		
III		22	132a <sup>1</sup>	113a <sup>4</sup>		VII		63	1	-224b <sup>5</sup>	-190b <sup>2</sup>	
		23	132a <sup>1</sup>	113a <sup>4</sup>				64	2	-225a <sup>2</sup>	-190b <sup>5</sup>	
		24	-132a <sup>5</sup>	-113a <sup>7</sup>				65	3	-225b <sup>1</sup>	-191a <sup>4</sup>	
		25	-132a <sup>7</sup>	-113b <sup>2</sup>				66	4	-226a <sup>6</sup>	-191b <sup>7</sup>	
		26	-132b <sup>2</sup>	-113b <sup>4</sup>		VIII		67	1	235a <sup>5</sup>	200a <sup>4</sup>	
		27	-133b <sup>4</sup>	-114b <sup>3</sup>				68	2	235a <sup>5</sup>	200a <sup>4</sup>	
		28	-133b <sup>4</sup>	-115b <sup>4</sup>				69	3	-241a <sup>6</sup>	-205b <sup>2</sup>	
		29	-135a <sup>3</sup>	-115b <sup>6</sup>				70	4	-241b <sup>7</sup>	-206a <sup>1</sup>	
		30	-137b <sup>3</sup>	-117b <sup>5</sup>					5	-245b <sup>7</sup>	-209b <sup>1</sup>	
			-139a <sup>7</sup>	-119b <sup>3</sup>			AS			-249a <sup>1</sup>	-212a <sup>3</sup>	

\* Skt : C. Pensa ed.

(2) Abhisamayālamkāravārtikā

Pek. No.5186 (Kha. 1-207a<sup>4</sup>). Tho. No.3788 (Kha. 1-181a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D		
I		0	<sup>Kha</sup> -5b <sup>3</sup>	<sup>Kha</sup> -4b <sup>5</sup>	IV	31	1	-109b <sup>3</sup>	-94b <sup>1</sup>		
	1	1	-13b <sup>2</sup>	-11a <sup>6</sup>		32	2	-113b <sup>3</sup>	-97b <sup>6</sup>		
	2	2	-25a <sup>6</sup>	-21a <sup>5</sup>		33	3	-115a <sup>1</sup>	-99a <sup>1</sup>		
	3	3	-40a <sup>6</sup>	-33b <sup>7</sup>		34	4	-117b <sup>8</sup>	-101b <sup>2</sup>		
	4	4	-44a <sup>4</sup>	-37a <sup>1</sup>		35	5	-128b <sup>8</sup>	-110b <sup>3</sup>		
	5	5	-45a <sup>8</sup>	-38a <sup>2</sup>		36	6	-130a <sup>6</sup>	-111b <sup>6</sup>		
	6	6	-47b <sup>8</sup>	-40a <sup>3</sup>		37	7	-132b <sup>5</sup>	-113b <sup>7</sup>		
	7	7	-49a <sup>4</sup>	-41a <sup>3</sup>		38	8	-146b <sup>7</sup>	-126b <sup>5</sup>		
	8	8	-52b <sup>6</sup>	-44a <sup>4</sup>		39	9	-148a <sup>3</sup>	-128a <sup>1</sup>		
	9	9	-64a <sup>2</sup>	-54a <sup>5</sup>		40	10	-149b <sup>3</sup>	-129a <sup>6</sup>		
	10	10	-75a <sup>7</sup>	-63b <sup>7</sup>	41	11	-151b <sup>4</sup>	-131a <sup>5</sup>			
II	11	1	-76a <sup>5</sup>	-64b <sup>5</sup>	V	42	1	-153a <sup>4</sup>	-132b <sup>3</sup>		
	12	2	-78b <sup>2</sup>	-66b <sup>7</sup>		43	2	-156a <sup>1</sup>	-135a <sup>4</sup>		
	13	3	-81a <sup>5</sup>	-69a <sup>6</sup>		44	3	-156b <sup>2</sup>	-135b <sup>4</sup>		
	14	4	-83b <sup>4</sup>	-71b <sup>2</sup>		45	4	-156b <sup>8</sup>	-136a <sup>2</sup>		
	15	5	-84a <sup>7</sup>	-72a <sup>3</sup>		46	5	-164b <sup>1</sup>	-142b <sup>7</sup>		
	16	6	-87b <sup>1</sup>	-75a <sup>1</sup>		47	6	-172a <sup>3</sup>	-149b <sup>6</sup>		
	17	7	-89b <sup>4</sup>	-76b <sup>7</sup>		48	7	-172b <sup>7</sup>	-150b <sup>1</sup>		
	18	8	-91b <sup>2</sup>	-78b <sup>2</sup>		49	8	-179b <sup>2</sup>	-156b <sup>1</sup>		
	19	9	-91b <sup>7</sup>	-78b <sup>6</sup>		VI	50~55	1~6	-180a <sup>7</sup>	-157a <sup>4</sup>	
	20	10	-92b <sup>3</sup>	-79b <sup>1</sup>	56~6		7~12	-181a <sup>8</sup>	-158a <sup>3</sup>		
	21	11	-93b <sup>5</sup>	-80b <sup>1</sup>		62	13	-182a <sup>2</sup>	-158b <sup>4</sup>		
III	22	1	} -94a <sup>1</sup>	} -80b <sup>4</sup>	VII	63	1	-182b <sup>7</sup>	-159b <sup>1</sup>		
	23	2				64	2	-183a <sup>4</sup>	-159b <sup>4</sup>		
	24	3				} -94a <sup>4</sup>	} -80b <sup>6</sup>	65	3	-183b <sup>5</sup>	-160a <sup>4</sup>
	25	4						66	4	-184b <sup>1</sup>	-160b <sup>7</sup>
	26	5	-94a <sup>8</sup>	-81a <sup>1</sup>	VIII	67	1	} -193b <sup>6</sup>	} -169a <sup>7</sup>		
	27	6	-95a <sup>8</sup>	-81b <sup>7</sup>		68	2				
	28	7	-97a <sup>1</sup>	-83a <sup>5</sup>		69	3	-200a <sup>1</sup>	-175a <sup>3</sup>		
	29	8	-97a <sup>4</sup>	-83a <sup>7</sup>		70	4	-200a <sup>8</sup>	-175b <sup>1</sup>		
	30	9	-99a <sup>3</sup>	-85a <sup>3</sup>			5	-204a <sup>5</sup>	-178b <sup>5</sup>		
			-99b <sup>1</sup>	-85b <sup>1</sup>	AS			-206b <sup>6</sup>	-181a <sup>3</sup>		

(3) Pañcaviṃśatisahasrika Prajñāpāramitā

Pek. No.5188 (Ga. 1—Ca. 403a<sup>7</sup>), Toh. No.3790 (Ga. 1—Ca. 342a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt*	{漢}**	Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt*	{漢}**
I		0	Ga-29a <sup>8</sup>	Ga-25b <sup>7</sup>	-17 <sup>22</sup>		IV	31	1	-201a <sup>3</sup>	-175a <sup>2</sup>		-313a <sup>25</sup>
		1	-51b <sup>8</sup>	-46a <sup>2</sup>	-37 <sup>13</sup>	-221b <sup>23</sup>		32	2	-218b <sup>5</sup>	-190a <sup>7</sup>		-316c <sup>25</sup>
		2	-141b <sup>3</sup>	-124b <sup>6</sup>	-119 <sup>10</sup>	-233b <sup>4</sup>		33	3	-226a <sup>5</sup>	-197a <sup>1</sup>		-318b <sup>12</sup>
		3	-197b <sup>6</sup>	-175b <sup>7</sup>	-160 <sup>14</sup>	-241c <sup>9</sup>		34	4	-247a <sup>8</sup>	-215a <sup>5</sup>		-333b <sup>17</sup>
		4	-203a <sup>8</sup>	-181a <sup>6</sup>	-164 <sup>12</sup>	-242c <sup>7</sup>		35	5	-316a <sup>3</sup>	-275b <sup>2</sup>		-336c <sup>17</sup>
		5	-206b <sup>5</sup>	-184b <sup>1</sup>	-169 <sup>3</sup>	-243b <sup>8</sup>		36	6	-323a <sup>2</sup>	-281b <sup>1</sup>		-338a <sup>3</sup>
		6	-212b <sup>3</sup>	-189b <sup>5</sup>	-175 <sup>2</sup>	-244c <sup>16</sup>		37	7	-328b <sup>3</sup>	-286a <sup>7</sup>		-339a <sup>7</sup>
		7	-220b <sup>4</sup>	-196b <sup>1</sup>	-179	-246b <sup>11</sup>		38	8	Ca-13a <sup>6</sup>	Ca-11b <sup>3</sup>		-346c <sup>27</sup>
		8	-227a <sup>7</sup>	-202a <sup>3</sup>	-185 <sup>19</sup>	-247c <sup>5</sup>		39	9	-15b <sup>8</sup>	-13b <sup>6</sup>		-347b <sup>22</sup>
		9	-294a <sup>6</sup>	-258a <sup>5</sup>	-231 <sup>10</sup>	-261a <sup>16</sup>		40	10	-27b <sup>8</sup>	-23b <sup>6</sup>		-350a <sup>4</sup>
	10	Na-10a <sup>7</sup>	Na-8a <sup>6</sup>	-269	-273b <sup>3</sup>	41	11	-36b <sup>7</sup>	-31b <sup>2</sup>		-351c <sup>6</sup>		
II	11	1	-11b <sup>6</sup>	-9b <sup>1</sup>	-(I)4 <sup>13</sup>	-273c <sup>5</sup>	V	42	1	-49a <sup>6</sup>	-42a <sup>3</sup>		-354b <sup>17</sup>
	12	2	-22a <sup>8</sup>	-17b <sup>7</sup>	-(I)13 <sup>10</sup>	-275b <sup>15</sup>		43	2	-72a <sup>8</sup>	-60b <sup>5</sup>		—
	13	3	-38b <sup>1</sup>	-30b <sup>7</sup>	-(I)28 <sup>11</sup>	-278b <sup>1</sup>		44	3	-73b <sup>6</sup>	-61b <sup>5</sup>		—
	14	4	-61b <sup>2</sup>	-52b <sup>6</sup>	-(II)17 <sup>26</sup>	-282c <sup>8</sup>		45	4	-75b <sup>4</sup>	-63a <sup>6</sup>		—
	15	5	-65b <sup>4</sup>	-56a <sup>7</sup>	-(II)22 <sup>8</sup>	-283c <sup>11</sup>		46	5	-146b <sup>4</sup>	-124a <sup>3</sup>		-368a <sup>29</sup>
	16	6	-106b <sup>3</sup>	-92b <sup>4</sup>	-(IV)14 <sup>9</sup>	-293a <sup>19</sup>		47	6	-117b <sup>3</sup>	-152a <sup>5</sup>		—
	17	7	-128a <sup>2</sup>	-111a <sup>7</sup>	-(V)23 <sup>8</sup>	-297b <sup>14</sup>		48	7	-180b <sup>6</sup>	-155a <sup>5</sup>		-378a <sup>12</sup>
	18	8	-145b <sup>3</sup>	-126b <sup>7</sup>		-301b <sup>21</sup>		49	8	-218b <sup>4</sup>	-189b <sup>1</sup>		-384a <sup>27</sup>
	19	9	-148a <sup>8</sup>	-129a <sup>3</sup>		-302a <sup>16</sup>		50~55	1~6	-223a <sup>4</sup>	-193b <sup>2</sup>		—
	20	10	-155b <sup>4</sup>	-135a <sup>4</sup>		-304a <sup>16</sup>		56~61	7~12	-227a <sup>3</sup>	-196b <sup>7</sup>		—
	21	11	-172b <sup>6</sup>	-149b <sup>3</sup>		-307c <sup>3</sup>		62	13	-231b <sup>3</sup>	-200b <sup>6</sup>		-386c <sup>25</sup>
III	22	1	-173a <sup>2</sup>	-149b <sup>6</sup>		—	VI	63	1	-244a <sup>3</sup>	-212a <sup>6</sup>		—
	23	2	-173a <sup>7</sup>	-150a <sup>3</sup>		—		64	2	-246a <sup>8</sup>	-214a <sup>5</sup>		—
	24	3	-173a <sup>8</sup>	-150a <sup>4</sup>		—		65	3	-255b <sup>6</sup>	-222a <sup>3</sup>		—
	25	4	-173a <sup>8</sup>	-150a <sup>4</sup>		—		66	4	-258b <sup>1</sup>	-224a <sup>6</sup>		-392b <sup>5</sup>
	26	5	-178a <sup>4</sup>	-154a <sup>7</sup>		-308b <sup>12</sup>	67	1	-259a <sup>1</sup>	-224b <sup>6</sup>		—	
	27	6	-185a <sup>1</sup>	-160b <sup>2</sup>		-309c <sup>21</sup>	68	2	-259a <sup>5</sup>	-225a <sup>2</sup>		—	
	28	7	-185b <sup>5</sup>	-161a <sup>4</sup>		-310a <sup>3</sup>	69	3	-259a <sup>8</sup>	-225a <sup>3</sup>		—	
	29	8	-191b <sup>8</sup>	-166b <sup>7</sup>		-311a <sup>20</sup>	70	4	-402b <sup>4</sup>	-341b <sup>5</sup>	*	-416a <sup>16</sup>	
	30	9	-194b <sup>7</sup>	-169a <sup>7</sup>		-311c <sup>14</sup>	AS						

\* Skt N. Dutt ed. (I章), T. Kimura ed. (II章), 第VIII章に関しては本論p.22を参照のこと。

\*\* {漢} 羅什訳 (大正 Vol.8) {漢訳}はチベット訳、Sktと完全には一致しない —— は対照が未確認箇所である。



(4) Śuddhamatī Pek. No.5199 (Ta. 87b<sup>8</sup>-240a<sup>8</sup>), Toh. No.3801 (Ta. 76a<sup>6</sup>-204a<sup>3</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D	
I		0	Ta-91a <sup>6</sup>	Ta-79a <sup>6</sup>	IV		31	1	-174a <sup>2</sup>	-149b <sup>1</sup>
	1	1	-96b <sup>8</sup>	-84a <sup>7</sup>		32	2	-177a <sup>6</sup>	-152a <sup>5</sup>	
	2	2	-107b <sup>4</sup>	-93b <sup>7</sup>		33	3	-177b <sup>8</sup>	-152b <sup>6</sup>	
	3	3	-114a <sup>4</sup>	-99b <sup>2</sup>		34	4	-179b <sup>2</sup>	-154a <sup>4</sup>	
	4	4	-118a <sup>3</sup>	-103a <sup>1</sup>		35	5	-188a <sup>6</sup>	-161a <sup>5</sup>	
	5	5	-118a <sup>8</sup>	-103a <sup>5</sup>		36	6	-189a <sup>6</sup>	-162a <sup>1</sup>	
	6	6	-119a <sup>1</sup>	-103b <sup>4</sup>		37	7	-190a <sup>1</sup>	-162b <sup>2</sup>	
	7	7	-119b <sup>7</sup>	-104b <sup>1</sup>		38	8	-198a <sup>5</sup>	-169a <sup>2</sup>	
	8	8	-123a <sup>7</sup>	-107a <sup>7</sup>		39	9	-199a <sup>7</sup>	-169b <sup>7</sup>	
	9	9	-140a <sup>2</sup>	-121a <sup>6</sup>		40	10	-199b <sup>6</sup>	-170a <sup>5</sup>	
10	10	-144a <sup>7</sup>	-124b <sup>7</sup>	41	11	-201a <sup>5</sup>	-171a <sup>7</sup>			
II	11	1	-144b <sup>6</sup>	-125a <sup>6</sup>	V	42	1	-202b <sup>5</sup>	-172b <sup>2</sup>	
	12	2	-147b <sup>4</sup>	-127b <sup>3</sup>		43	2	-205a <sup>2</sup>	-174a <sup>6</sup>	
	13	3	-149b <sup>7</sup>	-129a <sup>7</sup>		44	3	-205a <sup>7</sup>	-174b <sup>3</sup>	
	14	4	-152b <sup>4</sup>	-131b <sup>3</sup>		45	4	-205b <sup>7</sup>	-175a <sup>1</sup>	
	15	5	-153a <sup>6</sup>	-132a <sup>4</sup>		46	5	-214a <sup>2</sup>	-181b <sup>2</sup>	
	16	6	-156a <sup>8</sup>	-134b <sup>5</sup>		47	6	-219b <sup>1</sup>	-186a <sup>3</sup>	
	17	7	-159a <sup>1</sup>	-136b <sup>7</sup>		48	7	-219b <sup>7</sup>	-186b <sup>2</sup>	
	18	8	-161a <sup>6</sup>	-138b <sup>5</sup>		49	8	-226a <sup>4</sup>	-191b <sup>4</sup>	
	19	9	-161b <sup>5</sup>	-139a <sup>3</sup>	VI	50~55	1~6	-226b <sup>1</sup>	-191b <sup>7</sup>	
	20	10	-163a <sup>2</sup>	-140a <sup>4</sup>		56~61	7~12	-226b <sup>4</sup>	-192a <sup>3</sup>	
	21	11	-165b <sup>5</sup>	-142b <sup>1</sup>		62	13			
III	22	1	-165b <sup>8</sup>	-142b <sup>3</sup>	VII	63	1	-227a <sup>6</sup>	-192b <sup>3</sup>	
	23	2				64	2	-227b <sup>2</sup>	-192b <sup>6</sup>	
	24	3	-166a <sup>2</sup>	-142b <sup>5</sup>		65	3	-227b <sup>4</sup>	-192b <sup>7</sup>	
	25	4	-166a <sup>3</sup>	-142b <sup>6</sup>		66	4	-227b <sup>8</sup>	-193a <sup>3</sup>	
	26	5	-166b <sup>1</sup>	-143a <sup>3</sup>	VIII	67	1	-229b <sup>6</sup>	-194b <sup>6</sup>	
	27	6	-167b <sup>1</sup>	-144a <sup>1</sup>		68	2			
	28	7	-168a <sup>6</sup>	-144b <sup>4</sup>		69	3	-233b <sup>3</sup>	-198a <sup>4</sup>	
	29	8	-168b <sup>1</sup>	-144b <sup>6</sup>		70	4	-233b <sup>4</sup>	-198a <sup>5</sup>	
	30	9	-170b <sup>8</sup>	-146b <sup>7</sup>		5	5	-239b <sup>6</sup>	-203b <sup>2</sup>	
			-171a <sup>5</sup>	-147a <sup>3</sup>	AS			-240a <sup>6</sup>	-204a <sup>2</sup>	

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

(5) [Śatasahasrikāvivarana]

Pek. No.5203 (Da. 256a<sup>7</sup>-331b<sup>1</sup>), Toh. No.3802 (Da. 204a<sup>3</sup>-270a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	<sup>Da</sup> a-259a <sup>8</sup>	<sup>Da</sup> a-206b <sup>7</sup>	IV	31	1	-296b <sup>6</sup>	-240b <sup>7</sup>
	1	1	-262a <sup>4</sup>	-209b <sup>1</sup>		32	2	-298a <sup>2</sup>	-242a <sup>1</sup>
	2	2	-267b <sup>7</sup>	-214b <sup>3</sup>		33	3	-298b <sup>2</sup>	-242a <sup>7</sup>
	3	3	-273b <sup>6</sup>	-220a <sup>5</sup>		34	4	-299b <sup>2</sup>	-243a <sup>5</sup>
	4	4	-274b <sup>4</sup>	-221a <sup>2</sup>		35	5	-304a <sup>8</sup>	-247b <sup>1</sup>
	5	5	-274b <sup>5</sup>	-221a <sup>3</sup>		36	6	-304b <sup>8</sup>	-247b <sup>6</sup>
	6	6	-275a <sup>7</sup>	-221b <sup>3</sup>		37	7	-305a <sup>5</sup>	-248a <sup>4</sup>
	7	7	-275b <sup>5</sup>	-222a <sup>1</sup>		38	8	-308b <sup>4</sup>	-251a <sup>2</sup>
	8	8	-276a <sup>7</sup>	-222b <sup>2</sup>		39	9	-308b <sup>8</sup>	-251a <sup>5</sup>
	9	9	-279a <sup>5</sup>	-225a <sup>3</sup>		40	10	-309a <sup>3</sup>	-251a <sup>7</sup>
	10	10	-283b <sup>3</sup>	-229a <sup>2</sup>	41	11	-309b <sup>8</sup>	-252a <sup>7</sup>	
II	11	1	-284a <sup>2</sup>	-229a <sup>7</sup>	V	42	1	-310b <sup>1</sup>	-252b <sup>1</sup>
	12	2	-284b <sup>8</sup>	-230a <sup>4</sup>		43	2	-311b <sup>4</sup>	-253b <sup>2</sup>
	13	3	-286a <sup>7</sup>	-231b <sup>2</sup>		44	3	-311b <sup>6</sup>	-253b <sup>4</sup>
	14	4	-287b <sup>8</sup>	-232b <sup>7</sup>		45	4	-311b <sup>8</sup>	-253b <sup>5</sup>
	15	5	-288a <sup>5</sup>	-233a <sup>4</sup>		46	5	-314a <sup>4</sup>	-255b <sup>4</sup>
	16	6	-289b <sup>7</sup>	-234b <sup>4</sup>		47	6	-316b <sup>7</sup>	-257b <sup>7</sup>
	17	7	-290b <sup>4</sup>	-235a <sup>7</sup>		48	7	-317a <sup>7</sup>	-258a <sup>6</sup>
	18	8	-291a <sup>7</sup>	-236a <sup>2</sup>		49	8	-318b <sup>6</sup>	-259b <sup>3</sup>
	19	9	-291b <sup>2</sup>	-236a <sup>4</sup>	VI	50~55	1~6	-319a <sup>1</sup>	-259b <sup>6</sup>
	20	10	-292a <sup>3</sup>	-236b <sup>5</sup>		56~61	7~12		
	21	11	-293b <sup>5</sup>	-238a <sup>4</sup>		62	13		
III	22	1	-293b <sup>8</sup>	-238a <sup>7</sup>	VII	63	1	-319a <sup>4</sup>	-259b <sup>7</sup>
	23	2				64	2	-319a <sup>5</sup>	-260a <sup>2</sup>
	24	3	-294a <sup>2</sup>	-238b <sup>1</sup>		65	3	-319a <sup>7</sup>	-260a <sup>3</sup>
	25	4				66	4	-319a <sup>8</sup>	-260a <sup>4</sup>
	26	5	-294a <sup>5</sup>	-238b <sup>3</sup>	VIII	67	1	-319b <sup>2</sup>	-260a <sup>6</sup>
	27	6	-294a <sup>8</sup>	-238b <sup>5</sup>		68	2	}註釈なし*	}註釈なし*
	28	7	-295a <sup>4</sup>	-239b <sup>1</sup>		69	3		
	29	8	-295a <sup>5</sup>	-239b <sup>2</sup>		70	4		
	30	9	-295b <sup>8</sup>	-240a <sup>4</sup>		5	5	-320a <sup>7</sup>	-261a <sup>2</sup>
			-296a <sup>2</sup>	-240a <sup>5</sup>	AS				

\* 320a<sup>7</sup>~(261a<sup>2</sup>~)に変化身などの註釈があるが、AAの偈には従っていない。

(6) Abhisamayālamkāraloka

Pek. No.5189 (Cha. 1-426a<sup>7</sup>), Toh. No.3791 (Cha. 1-341a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt*	Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt
I		0	<sup>Cha</sup> -23a <sup>4</sup>	<sup>Cha</sup> -19a <sup>4</sup>	-23	IV	31	1	-224a <sup>1</sup>	-183a <sup>3</sup>	-457
	1	1	-28b <sup>5</sup>	-23b <sup>5</sup>	-30 <sup>18</sup>		32	2	-232a <sup>2</sup>	-189a <sup>7</sup>	-481 <sup>21</sup>
	2	2	-34a <sup>1</sup>	-28a <sup>2</sup>	-36 <sup>18</sup>		33	3	-237b <sup>2</sup>	-193b <sup>7</sup>	-497
	3	3	-57b <sup>2</sup>	-46b <sup>3</sup>	-75 <sup>22</sup>		34	4	-245a <sup>1</sup>	-199b <sup>7</sup>	-531 <sup>6</sup>
	4	4	-59a <sup>8</sup>	-48a <sup>3</sup>	-78 <sup>5</sup>		35	5	-298b <sup>3</sup>	-241b <sup>7</sup>	-646
	5	5	-60b <sup>5</sup>	-49a <sup>5</sup>	-79 <sup>21</sup>		36	6	-303a <sup>6</sup>	-245b <sup>2</sup>	-660 <sup>25</sup>
	6	6	-62b <sup>7</sup>	-51a <sup>2</sup>	-84 <sup>4</sup>		37	7	-305b <sup>5</sup>	-247a <sup>6</sup>	-664
	7	7	-64a <sup>3</sup>	-52a <sup>2</sup>	-85 <sup>23</sup>		38	8	-333a <sup>4</sup>	-267b <sup>2</sup>	-728 <sup>12</sup>
	8	8	-65a <sup>2</sup>	-52b <sup>7</sup>	-86 <sup>26</sup>		39	9	-337b <sup>7</sup>	-271a <sup>5</sup>	-738 <sup>14</sup>
	9	9	-79a <sup>3</sup>	-63b <sup>3</sup>	-106 <sup>5</sup>		40	10	-340a <sup>3</sup>	-273a <sup>2</sup>	-748
	10	10	-91a <sup>3</sup>	-73a <sup>2</sup>	-128 <sup>9</sup>	41	11	-344b <sup>4</sup>	-276a <sup>7</sup>	-763 <sup>18</sup>	
II	11	1	-97b <sup>4</sup>	-77b <sup>7</sup>	-137 <sup>20</sup>	V	42	1	-351b <sup>7</sup>	-282a <sup>1</sup>	-792 <sup>16</sup>
	12	2	-109b <sup>7</sup>	-86b <sup>6</sup>	-153 <sup>14</sup>		43	2	-359a <sup>2</sup>	-287b <sup>1</sup>	-828
	13	3	-119b <sup>3</sup>	-94a <sup>3</sup>	-169 <sup>22</sup>		44	3	-360a <sup>1</sup>	-288a <sup>4</sup>	-831 <sup>9</sup>
	14	4	-139b <sup>6</sup>	-108a <sup>6</sup>	-200 <sup>20</sup>		45	4	-360b <sup>4</sup>	-288b <sup>4</sup>	-832 <sup>28</sup>
	15	5	-144b <sup>6</sup>	-111b <sup>4</sup>	-208 <sup>7</sup>		46	5	-382a <sup>4</sup>	-305a <sup>3</sup>	-888 <sup>12</sup>
	16	6	-168a <sup>6</sup>	-132b <sup>4</sup>	-283		47	6	-389b <sup>4</sup>	-311a <sup>7</sup>	-903 <sup>9</sup>
	17	7	-174a <sup>6</sup>	-138b <sup>1</sup>	-324		48	7	-390a <sup>5</sup>	-311b <sup>6</sup>	-904 <sup>2</sup>
	18	8	-189a <sup>8</sup>	-152b <sup>3</sup>	-369 <sup>21</sup>		49	8	-392b <sup>3</sup>	-313b <sup>6</sup>	-907
	19	9	-190b <sup>5</sup>	-153b <sup>6</sup>	-378		VI	50~55	1~6	393a <sup>3</sup>	314a <sup>6</sup>
	20	10	-199a <sup>6</sup>	-161b <sup>6</sup>	-403	56~61		7~12			
	21	11	-202b <sup>1</sup>	-164b <sup>5</sup>	-413	62	13				
III	22	1	203a <sup>1</sup>	165a <sup>4</sup>	414 <sup>5</sup>	VII	63	1	-393b <sup>7</sup>	-314b <sup>7</sup>	-910 <sup>1</sup>
	23	2					64	2	-394a <sup>3</sup>	-315a <sup>3</sup>	-910 <sup>10</sup>
	24	3	203b <sup>6</sup>	165b <sup>7</sup>	415 <sup>15</sup>		65	3	-394a <sup>7</sup>	-315a <sup>6</sup>	-910 <sup>19</sup>
	25	4					66	4	-395a <sup>2</sup>	-315b <sup>6</sup>	-911 <sup>13</sup>
	26	5	-204b <sup>1</sup>	-166b <sup>2</sup>	-417 <sup>2</sup>	VIII	67	1	-396a <sup>2</sup>	-316b <sup>4</sup>	-914 <sup>23</sup>
	27	6	-207b <sup>8</sup>	-169b <sup>3</sup>	-423		68	2	-399a <sup>5</sup>	-319a <sup>6</sup>	-918 <sup>17</sup>
	28	7	-210a <sup>8</sup>	-172a <sup>1</sup>	-431 <sup>27</sup>		69	3	-403a <sup>7</sup>	-322b <sup>5</sup>	-923 <sup>22</sup>
	29	8	-210b <sup>6</sup>	-172a <sup>5</sup>	-433		70	4	-403b <sup>2</sup>	-322b <sup>7</sup>	-924 <sup>3</sup>
	30	9	-214b <sup>5</sup>	-175b <sup>2</sup>	-441 <sup>22</sup>		5	-405a <sup>3</sup>	-324a <sup>5</sup>	-926	
				-215a <sup>7</sup>	-176a <sup>2</sup>	-445 <sup>4</sup>	AS		423a <sup>7</sup>	339a <sup>2</sup>	991 <sup>20</sup>
								-424b <sup>6</sup>	-340a <sup>5</sup>	-993 <sup>14</sup>	

\* U. Wogihara ed.

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

(7) Sārottama Pek. No.5200 (Tha. 1-253a<sup>5</sup>), Toh. No.3803 (Tha. 1-230a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt*	Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Skt
I		0	Tha-9b <sup>1</sup>	Tha-9a <sup>7</sup>		IV	31	1	-134a <sup>7</sup>	-117b <sup>1</sup>	
	1	1	-12b <sup>1</sup>	-12a <sup>7</sup>			32	2	-139a <sup>6</sup>	-121b <sup>4</sup>	-87 <sup>19</sup>
	2	2	-17a <sup>8</sup>	-16b <sup>7</sup>			33	3	-141b <sup>7</sup>	-123b <sup>5</sup>	-89 <sup>31</sup>
	3	3	-31a <sup>6</sup>	-28b <sup>7</sup>			34	4	-146b <sup>4</sup>	-127b <sup>5</sup>	-94
	4	4	-33a <sup>1</sup>	-30a <sup>5</sup>			35	5	-168b <sup>5</sup>	-146b <sup>1</sup>	-105 <sup>16</sup>
	5	5	-33a <sup>6</sup>	-30b <sup>2</sup>			36	6	-170b <sup>2</sup>	-147b <sup>7</sup>	-107 <sup>2</sup>
	6	6	-34b <sup>2</sup>	-31b <sup>3</sup>			37	7	-171b <sup>5</sup>	-148b <sup>6</sup>	-108 <sup>7</sup>
	7	7	-37b <sup>2</sup>	-34a <sup>1</sup>			38	8	-185a <sup>7</sup>	-161a <sup>2</sup>	-123 <sup>28</sup>
	8	8	-40a <sup>5</sup>	-36a <sup>3</sup>			39	9	-185b <sup>6</sup>	-161b <sup>1</sup>	-124 <sup>14</sup>
	9	9	-49a <sup>4</sup>	-44b <sup>2</sup>	-10 <sup>9</sup>		40	10	-186b <sup>5</sup>	-162a <sup>6</sup>	-125 <sup>13</sup>
10	10	-59b <sup>3</sup>	-53b <sup>7</sup>	-20 <sup>6</sup>	41	11	-189a <sup>2</sup>	-164b <sup>1</sup>	-128 <sup>4</sup>		
II	11	1	-62a <sup>6</sup>	-56a <sup>5</sup>	-23 <sup>14</sup>	V	42	1	-192b <sup>6</sup>	-168a <sup>2</sup>	-132 <sup>28</sup>
	12	2	-64b <sup>8</sup>	-58b <sup>1</sup>	-25 <sup>29</sup>		43	2	-195a <sup>6</sup>	-170b <sup>1</sup>	-136 <sup>12</sup>
	13	3	-67b <sup>7</sup>	-60b <sup>6</sup>	-28 <sup>26</sup>		44	3	-196a <sup>1</sup>	-171a <sup>3</sup>	-137 <sup>6</sup>
	14	4	-74b <sup>7</sup>	-66b <sup>3</sup>	-35 <sup>28</sup>		45	4	-196b <sup>7</sup>	-172a <sup>1</sup>	-138 <sup>5</sup>
	15	5	-77a <sup>4</sup>	-68b <sup>2</sup>	-37 <sup>34</sup>		46	5	-209b <sup>7</sup>	-184b <sup>1</sup>	-152 <sup>14</sup>
	16	6	-85a <sup>7</sup>	-75b <sup>5</sup>	-46 <sup>14</sup>		47	6	-214a <sup>7</sup>	-189a <sup>3</sup>	-158 <sup>5</sup>
	17	7	-95b <sup>7</sup>	-84b <sup>7</sup>	-56 <sup>14</sup>		48	7	-215a <sup>6</sup>	-190a <sup>2</sup>	-159 <sup>9</sup>
	18	8	-104a <sup>6</sup>	-91b <sup>7</sup>	-64 <sup>3</sup>		49	8	-218b <sup>6</sup>	-193b <sup>5</sup>	-163 <sup>11</sup>
	19	9	-105b <sup>3</sup>	-93a <sup>2</sup>	-65 <sup>16</sup>	VI	50-55	1-6	-219b <sup>4</sup>	-194b <sup>4</sup>	-164 <sup>15</sup>
	20	10	-110a <sup>3</sup>	-96b <sup>6</sup>	-69 <sup>16</sup>		56-61	7-12	-220b <sup>1</sup>	-195b <sup>2</sup>	-165 <sup>10</sup>
	21	11	-118a <sup>2</sup>	-103b <sup>2</sup>	-77 <sup>9</sup>		62	13	-224a <sup>4</sup>	-199b <sup>3</sup>	-169 <sup>9</sup>
III	22	1	-118b <sup>4</sup>	-104a <sup>3</sup>	-78 <sup>3</sup>	VII	63	1	-224b <sup>5</sup>	-200a <sup>6</sup>	-170 <sup>5</sup>
	23	2								64	2
	24	3	-118b <sup>6</sup>	-104a <sup>4</sup>	-78 <sup>8</sup>		65	3	-225b <sup>2</sup>	-201a <sup>5</sup>	-171 <sup>3</sup>
	25	4	-119a <sup>2</sup>	-104b <sup>1</sup>	-78 <sup>16</sup>		66	4	-226a <sup>2</sup>	-201b <sup>5</sup>	-171 <sup>23</sup>
	26	5	-120b <sup>8</sup>	-106a <sup>2</sup>	-80 <sup>13</sup>	VIII	67	1	-227a <sup>7</sup>	-203a <sup>4</sup>	-173 <sup>24</sup>
	27	6									
	28	7	-123a <sup>5</sup>	-108a <sup>3</sup>		69	3	-235a <sup>3</sup>	-211a <sup>5</sup>	-184 <sup>12</sup>	
	29	8	-124b <sup>8</sup>	-109b <sup>1</sup>		70	4	-235b <sup>7</sup>	-212a <sup>2</sup>	-185 <sup>11</sup>	
	30	9	-127b <sup>6</sup>	-111b <sup>7</sup>			5	-244a <sup>8</sup>	-220b <sup>7</sup>	-194 <sup>5</sup>	
				-128a <sup>5</sup>	-112a <sup>5</sup>	-83 <sup>17</sup>	A.S.				

\* P.S. Jaini ed.

(8) Marmakaumudr Pek. No.5202 (Da. 1-256a<sup>7</sup>), Toh. No.3805 (Da. 1-228a<sup>4</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	<sup>Da</sup> -11b <sup>8</sup>	<sup>Da</sup> -10a <sup>5</sup>	IV	31	1	-147b <sup>7</sup>	-129b <sup>6</sup>
	1	1	-16a <sup>8</sup>	-13b <sup>6</sup>		32	2	-150a <sup>5</sup>	-132a <sup>2</sup>
	2	2	-23b <sup>7</sup>	-20a <sup>7</sup>		33	3	-151b <sup>2</sup>	-133a <sup>5</sup>
	3	3	-56a <sup>2</sup>	-48a <sup>7</sup>		34	4	-155a <sup>1</sup>	-136a <sup>5</sup>
	4	4	-57b <sup>1</sup>	-49b <sup>4</sup>		35	5	-170a <sup>6</sup>	-149b <sup>7</sup>
	5	5	-58a <sup>7</sup>	-50b <sup>1</sup>		36	6	-171a <sup>4</sup>	-150b <sup>5</sup>
	6	6	-59b <sup>6</sup>	-51b <sup>6</sup>		37	7	-172b <sup>8</sup>	-152a <sup>7</sup>
	7	7	-62a <sup>7</sup>	-54a <sup>5</sup>		38	8	-185a <sup>8</sup>	-163b <sup>6</sup>
	8	8	-63b <sup>7</sup>	-55b <sup>3</sup>		39	9	-186a <sup>6</sup>	-164b <sup>5</sup>
	9	9	-74a <sup>3</sup>	-65a <sup>5</sup>		40	10	-186b <sup>7</sup>	-165a <sup>5</sup>
10	10	-81a <sup>4</sup>	-71b <sup>1</sup>	41	11	-188a <sup>8</sup>	-166b <sup>4</sup>		
II	11	1	-88a <sup>2</sup>	-77b <sup>2</sup>	V	42	1	-191b <sup>6</sup>	-169b <sup>4</sup>
	12	2	-91a <sup>6</sup>	-80b <sup>1</sup>		43	2	-193a <sup>8</sup>	-171a <sup>3</sup>
	13	3	-93a <sup>6</sup>	-82a <sup>5</sup>		44	3	-193b <sup>8</sup>	-171b <sup>3</sup>
	14	4	-101b <sup>7</sup>	-89b <sup>6</sup>		45	4	-194b <sup>2</sup>	-172a <sup>4</sup>
	15	5	-103b <sup>4</sup>	-91a <sup>7</sup>		46	5	-205a <sup>2</sup>	-181b <sup>3</sup>
	16	6	-109b <sup>8</sup>	-96b <sup>4</sup>		47	6	-210b <sup>3</sup>	-187a <sup>1</sup>
	17	7	-115a <sup>4</sup>	-101a <sup>4</sup>		48	7	-211a <sup>7</sup>	-187b <sup>3</sup>
	18	8	-121b <sup>3</sup>	-106b <sup>6</sup>		49	8	-215a <sup>2</sup>	-191a <sup>3</sup>
	19	9	-122b <sup>7</sup>	-107b <sup>7</sup>	VI	50~55	1~6	-215b <sup>4</sup>	-191b <sup>4</sup>
	20	10	-131a <sup>1</sup>	-114b <sup>7</sup>		56~61	7~21	-216b <sup>1</sup>	-192a <sup>7</sup>
	21	11	-133b <sup>2</sup>	-117a <sup>3</sup>		62	13	-219b <sup>4</sup>	-195a <sup>7</sup>
III	22	1	} -134a <sup>2</sup>	} -117b <sup>3</sup>	VII	63	1	-220a <sup>7</sup>	-196a <sup>2</sup>
	23	2				64	2	-220b <sup>4</sup>	-196a <sup>7</sup>
	24	3	-134a <sup>5</sup>	-117b <sup>5</sup>		65	3	-221a <sup>3</sup>	-196b <sup>5</sup>
	25	4	-134a <sup>8</sup>	-117b <sup>7</sup>		66	4	-221b <sup>3</sup>	-197a <sup>5</sup>
	26	5	-134b <sup>5</sup>	-118a <sup>4</sup>	VIII	67	1	} -225a <sup>3</sup>	} -200a <sup>6</sup>
	27	6	-135b <sup>5</sup>	-119a <sup>2</sup>		68	2		
	28	7	-137b <sup>1</sup>	-120b <sup>2</sup>		69	3	-229a <sup>2</sup>	-203b <sup>6</sup>
	29	8	-138a <sup>5</sup>	-121a <sup>4</sup>		70	4	-232b <sup>6</sup>	-207a <sup>4</sup>
	30	9	-141a <sup>6</sup>	-123b <sup>7</sup>		5	5	-239a <sup>1</sup>	-212b <sup>7</sup>
			-142a <sup>2</sup>	-124b <sup>1</sup>	A.S.				

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

(9) Ratnagaṇasamcayagāthapañjika

Pek. No.5190 (Ja. 1-93a<sup>5</sup>), Toh. No.3792 (Ja. 1-78a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	$J^a - 5 a^2$	$J^a - 3 b^7$	IV	31	1	} -45a <sup>4</sup>	} -37b <sup>2</sup>
	1	1	-12a <sup>2</sup>	-9 b <sup>4</sup>		32	2		
	2	2	-12a <sup>6</sup>	-9 b <sup>7</sup>		33	3	-45b <sup>3</sup>	-37b <sup>7</sup>
	3	3	-18a <sup>7</sup>	-15a <sup>4</sup>		34	4	-47a <sup>8</sup>	-39a <sup>6</sup>
	4	4	-18b <sup>7</sup>	-15b <sup>3</sup>		35	5	-55a <sup>5</sup>	-45b <sup>1</sup>
	5	5	-20a <sup>2</sup>	-16a <sup>7</sup>		36	6	-55b <sup>7</sup>	-46a <sup>2</sup>
	6	6	-20b <sup>3</sup>	-16b <sup>3</sup>		37	7	-56b <sup>1</sup>	-46b <sup>2</sup>
	7	7	-20b <sup>6</sup>	-17a <sup>5</sup>		38	8	-62b <sup>2</sup>	-51b <sup>5</sup>
	8	8	-21a <sup>1</sup>	-17a <sup>7</sup>		39	9	-62b <sup>6</sup>	-52a <sup>1</sup>
	9	9	-22b <sup>8</sup>	-18b <sup>7</sup>		40	10	-63a <sup>2</sup>	-52a <sup>5</sup>
	10	10	-24b <sup>2</sup>	-20a <sup>4</sup>	41	11	-66b <sup>6</sup>	-55b <sup>4</sup>	
II	11	1	-25b <sup>2</sup>	-21a <sup>2</sup>	V	42	1	-70a <sup>3</sup>	-58b <sup>5</sup>
	12	2	-25b <sup>8</sup>	-21a <sup>6</sup>		43	2	-74a <sup>2</sup>	-62a <sup>5</sup>
	13	3	-27b <sup>7</sup>	-23a <sup>1</sup>		44	3	-74a <sup>5</sup>	-62b <sup>1</sup>
	14	4	-30a <sup>5</sup>	-25a <sup>1</sup>		45	4	-74a <sup>8</sup>	-62b <sup>3</sup>
	15	5	-30b <sup>4</sup>	-25a <sup>6</sup>		46	5	-79b <sup>1</sup>	-67a <sup>1</sup>
	16	6	-34b <sup>6</sup>	-29a <sup>1</sup>		47	6	-80a <sup>8</sup>	-67b <sup>6</sup>
	17	7	-36a <sup>7</sup>	-30a <sup>5</sup>		48	7	-80b <sup>6</sup>	-68a <sup>3</sup>
	18	8	-36b <sup>6</sup>	-30b <sup>3</sup>		49	8	-82a <sup>3</sup>	-69a <sup>5</sup>
	19	9	-38b <sup>8</sup>	-32a <sup>7</sup>	VI	50-55	1-6	} -82b <sup>1</sup>	} -69b <sup>2</sup>
	20	10	-39b <sup>7</sup>	-33a <sup>4</sup>		56-61	7-12		
21	11	-41a <sup>8</sup>	-34b <sup>1</sup>	62	13				
III	22	1	} -41b <sup>8</sup>	} -34b <sup>7</sup>	VII	63	1	} -83a <sup>1</sup>	} -70a <sup>2</sup>
	23	2				64	2		
	24	3				65	3		
	25	4				66	4		
	26	5	} -42a <sup>8</sup>	} -35a <sup>5</sup>	VIII	67	1	} -83b <sup>1</sup>	} -70b <sup>1</sup>
	27	6				68	2		
	28	7	-42b <sup>4</sup>	-35b <sup>1</sup>	69	3			
	29	8	} -43a <sup>3</sup>	} -35b <sup>6</sup>	70	4			
	30	9				5			
				-43a <sup>8</sup>	-36a <sup>3</sup>	A.S.			

(10) Saṃcayagāthapañjika

Pek. No.5196 (Ña. 135b<sup>5</sup>-223a<sup>8</sup>), Toh. No.3798 (Ña. 116a<sup>7</sup>-189b<sup>1</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	$\bar{N}_a-139a^3$	$\bar{N}_a-119a^4$	IV	31	1	-171b <sup>1</sup>	-145b <sup>7</sup>
	1	1	-141b <sup>5</sup>	-121a <sup>5</sup>		32	2	-173a <sup>2</sup>	-147a <sup>4</sup>
	2	2	-145a <sup>2</sup>	-124a <sup>2</sup>		33	3	-173a <sup>5</sup>	-147a <sup>7</sup>
	3	3	-154b <sup>2</sup>	-131b <sup>5</sup>		34	4	-174b <sup>3</sup>	-148b <sup>1</sup>
	4	4	-154b <sup>4</sup>	-131b <sup>6</sup>		35	5	-179b <sup>7</sup>	-152b <sup>7</sup>
	5	5	-155a <sup>4</sup>	-132a <sup>4</sup>		36	6	-180a <sup>2</sup>	-153a <sup>2</sup>
	6	6	-155a <sup>6</sup>	-132a <sup>6</sup>		37	7	-180b <sup>1</sup>	-153a <sup>7</sup>
	7	7	-155b <sup>2</sup>	-132b <sup>1</sup>		38	8	-183b <sup>3</sup>	-156a <sup>3</sup>
	8	8	-155b <sup>3</sup>	-132b <sup>3</sup>		39	9	-183b <sup>8</sup>	-156a <sup>7</sup>
	9	9	-156b <sup>8</sup>	-133b <sup>3</sup>		40	10	-184a <sup>2</sup>	-156b <sup>1</sup>
	10	10	-159b <sup>2</sup>	-135b <sup>5</sup>	41	11	-187a <sup>1</sup>	-158b <sup>7</sup>	
II	11	1	註釈なし	註釈なし	V	42	1	-192a <sup>7</sup>	-163a <sup>6</sup>
	12	2	-160a <sup>4</sup>	-136a <sup>5</sup>		43	2	-196b <sup>8</sup>	-167a <sup>2</sup>
	13	3	-161b <sup>5</sup>	-137b <sup>3</sup>		44	3	} -204b <sup>4</sup> }	} -173b <sup>2</sup> }
	14	4	-162b <sup>5</sup>	-138b <sup>1</sup>		45	4		
	15	5	-163a <sup>3</sup>	-138b <sup>6</sup>		46	5	-205b <sup>3</sup>	-174a <sup>7</sup>
	16	6	-163b <sup>4</sup>	-139a <sup>6</sup>		47	6	-206a <sup>7</sup>	-175a <sup>2</sup>
	17	7	-166b <sup>1</sup>	-141b <sup>4</sup>		48	7	-206b <sup>6</sup>	-175a <sup>7</sup>
	18	8	-168a <sup>4*</sup>	-143a <sup>3*</sup>		49	8	-218b <sup>4</sup>	-185b <sup>2</sup>
	19	9	-166b <sup>5</sup>	-141b <sup>7</sup>	VI	50~55	1~6	} -221a <sup>2</sup> }	} -187b <sup>1</sup> }
	20	10	-168b <sup>1</sup>	-143a <sup>7</sup>		56~61	7~12		
	21	11	-169b <sup>2</sup>	-144a <sup>5</sup>		62	13		
III	22	1	} 171a <sup>4**</sup> }	} 145b <sup>3**</sup> }	VII	63	1	} -221b <sup>3</sup> }	} -188a <sup>1</sup> }
	23	2				64	2		
	24	3				65	3		
	25	4				66	4		
	26	5			} -222a <sup>6</sup> }	} -188b <sup>2</sup> }	VIII	67	1
	27	6						68	2
	28	7						69	3
	29	8						70	4
	30	9							5

\* No.18とNo.19は順番が逆転している。

\*\* Cha. IIIは經典の註釈だけでAAの項目としては分けられていない。

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

(12) [Aṣṭasamānārthasāsanā]

Pek. No.5187 (Kha. 207a<sup>4</sup>-275a<sup>8</sup>), Toh. No.3789 (Kha. 182b<sup>1</sup>-243a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	<sup>Kha</sup> -207b <sup>1</sup>	<sup>Kha</sup> -182b <sup>4</sup>	IV	31	1	-234b <sup>6</sup>	-207a <sup>7</sup>
	1	1	-209a <sup>1</sup>	-184a <sup>2</sup>		32	2	-236b <sup>2</sup>	-209a <sup>3</sup>
	2	2	-210b <sup>4</sup>	-185b <sup>2</sup>		33	3	-237b <sup>4</sup>	-210a <sup>3</sup>
	3	3	-213b <sup>3</sup>	-188a <sup>4</sup>		34	4	-240b <sup>5</sup>	-213a <sup>1</sup>
	4	4	-213b <sup>7</sup>	-188a <sup>7</sup>		35	5	-247b <sup>6</sup>	-219a <sup>5</sup>
	5	5	-214b <sup>2</sup>	-189a <sup>2</sup>		36	6	-247b <sup>8</sup>	-219a <sup>7</sup>
	6	6	-214b <sup>7</sup>	-189a <sup>6</sup>		37	7	-248b <sup>2</sup>	-220a <sup>1</sup>
	7	7	-215a <sup>1</sup>	-189b <sup>1</sup>		38	8	-254b <sup>5</sup>	-225b <sup>1</sup>
	8	8	-215b <sup>5</sup>	-190a <sup>3</sup>		39	9	-254b <sup>7</sup>	-225b <sup>3</sup>
	9	9	-217b <sup>2</sup>	-191b <sup>5</sup>		40	10	-254b <sup>8</sup>	-225b <sup>4</sup>
	10	10	-218a <sup>5</sup>	-192a <sup>6</sup>	41	11	-255b <sup>6</sup>	-226b <sup>1</sup>	
II	11	1	-218b <sup>3</sup>	-192b <sup>3</sup>	V	42	1	-256b <sup>6</sup>	-227a <sup>6</sup>
	12	2	-219a <sup>6</sup>	-193a <sup>5</sup>		43	2	-258b <sup>1</sup>	-228b <sup>6</sup>
	13	3	-219b <sup>3</sup>	-193b <sup>2</sup>		44	3	-258b <sup>3</sup>	-229a <sup>1</sup>
	14	4	-221a <sup>2</sup>	-194b <sup>5</sup>		45	4	-258b <sup>5</sup>	-229a <sup>2</sup>
	15	5	-221b <sup>2</sup>	-195a <sup>4</sup>		46	5	-263a <sup>2</sup>	-233a <sup>1</sup>
	16	6	-223b <sup>1</sup>	-197a <sup>1</sup>		47	6	-266b <sup>1</sup>	-236a <sup>2</sup>
	17	7	-225a <sup>2</sup>	-198a <sup>7</sup>		48	7	-266b <sup>3</sup>	-236a <sup>3</sup>
	18	8	-226a <sup>2</sup>	-199a <sup>6</sup>		49	8	-268b <sup>3</sup>	-237b <sup>6</sup>
	19	9	-226a <sup>4</sup>	-199b <sup>1</sup>	VI	50~55	1~6	-269a <sup>8</sup>	-238b <sup>2</sup>
	20	10	-226b <sup>1</sup>	-199b <sup>5</sup>		56~61	7~12	-269b <sup>7</sup>	-238b <sup>7</sup>
	21	11	-227a <sup>3</sup>	-200a <sup>6</sup>		62	13	-269b <sup>8</sup>	-239a <sup>2</sup>
III	22	1	} -227a <sup>7</sup> }	} -200b <sup>2</sup> }	VII	63	1	-270a <sup>4</sup>	-239a <sup>4</sup>
	23	2				64	2	-270a <sup>6</sup>	-239a <sup>6</sup>
	24	3	-227a <sup>8</sup>	-200b <sup>3</sup>		65	3	-270b <sup>1</sup>	-239b <sup>1</sup>
	25	4	-227b <sup>1</sup>	-200b <sup>4</sup>		66	4	-270b <sup>3</sup>	-239b <sup>3</sup>
	26	5	-227b <sup>2</sup>	-200b <sup>5</sup>	VIII	67	1	-270b <sup>7</sup>	-239b <sup>6</sup>
	27	6	-227b <sup>8</sup>	-201a <sup>2</sup>		68	2	-270b <sup>8</sup>	-239b <sup>7</sup>
	28	7	-229a <sup>1</sup>	-202a <sup>2</sup>		69	3	-271a <sup>2</sup>	-240a <sup>1</sup>
	29	8	-229a <sup>4</sup>	-202a <sup>4</sup>		70	4	-271a <sup>3</sup>	-240a <sup>2</sup>
	30	9	-230b <sup>5</sup>	-203b <sup>3</sup>		5	-275a <sup>4</sup>	-243a <sup>6</sup>	
					AS			-275a <sup>5</sup>	-243a <sup>6</sup>



(13) Abhisamayālamkāraśāstravṛtti

Pek. No.5191 (Ja. 93a<sup>6</sup>-161a<sup>7</sup>), Toh. No.3793 (Ja. 78b<sup>1</sup>-140a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	Ja-97b <sup>1</sup>	Ja-82a <sup>5</sup>	IV	31	1	-126b <sup>1</sup>	-108a <sup>3</sup>
	1	1	-99a <sup>5</sup>	-83b <sup>6</sup>		32	2	-127b <sup>1</sup>	-109a <sup>2</sup>
	2	2	-101b <sup>4</sup>	-86a <sup>1</sup>		33	3	-127b <sup>7</sup>	-109b <sup>1</sup>
	3	3	-105a <sup>6</sup>	-89a <sup>4</sup>		34	4	-128b <sup>5</sup>	-110a <sup>5</sup>
	4	4	-106a <sup>5</sup>	-90a <sup>1</sup>		35	5	-131b <sup>7</sup>	-113a <sup>5</sup>
	5	5	-106b <sup>3</sup>	-90a <sup>6</sup>		36	6	-132a <sup>7</sup>	-113b <sup>5</sup>
	6	6	-106b <sup>6</sup>	-90b <sup>2</sup>		37	7	-133a <sup>2</sup>	-114b <sup>1</sup>
	7	7	-107a <sup>6</sup>	-90b <sup>7</sup>		38	8	-138a <sup>8</sup>	-119a <sup>7</sup>
	8	8	-107b <sup>3</sup>	-91a <sup>4</sup>		39	9	-139a <sup>2</sup>	-120a <sup>1</sup>
	9	9	-111b <sup>8</sup>	-95a <sup>2</sup>		40	10	-139a <sup>5</sup>	-120a <sup>4</sup>
	10	10	-112a <sup>6</sup>	-95a <sup>6</sup>	41	11	-139b <sup>4</sup>	-120b <sup>2</sup>	
II	11	1	-112b <sup>5</sup>	-95b <sup>5</sup>	V	42	1	-140a <sup>3</sup>	-121a <sup>1</sup>
	12	2	-113b <sup>4</sup>	-96b <sup>2</sup>		43	2	-140b <sup>3</sup>	-121a <sup>7</sup>
	13	3	-114b <sup>8</sup>	-97b <sup>2</sup>		44	3	-140b <sup>6</sup>	-121b <sup>3</sup>
	14	4	-116a <sup>3</sup>	-98b <sup>3</sup>		45	4	-141a <sup>3</sup>	-121b <sup>6</sup>
	15	5	-116a <sup>8</sup>	-98b <sup>6</sup>		46	5	-145b <sup>2</sup>	-126a <sup>2</sup>
	16	6	-116b <sup>4</sup>	-99a <sup>3</sup>		47	6	-148a <sup>4</sup>	-128b <sup>3</sup>
	17	7	-116b <sup>8</sup>	-99a <sup>6</sup>		48	7	-148b <sup>3</sup>	-129a <sup>2</sup>
	18	8	-117a <sup>8</sup>	-99b <sup>5</sup>		49	8	-149a <sup>7</sup>	-129b <sup>5</sup>
	19	9	-117b <sup>4</sup>	-100a <sup>2</sup>	VI	50~55	1~6	-149b <sup>6</sup>	-130a <sup>4</sup>
	20	10	-117b <sup>8</sup>	-100a <sup>4</sup>		56~61	7~12		
	21	11	-119a <sup>3</sup>	-101a <sup>5</sup>		62	13		
III	22	1	-119b <sup>1</sup>	-101b <sup>3</sup>	VII	63	1	-150a <sup>7</sup>	-130b <sup>4</sup>
	23	2				64	2	-150b <sup>3</sup>	-130b <sup>7</sup>
	24	3	-119b <sup>8</sup>	-102a <sup>1</sup>		65	3	-150b <sup>8</sup>	-131a <sup>4</sup>
	25	4				66	4	-151a <sup>4</sup>	-131a <sup>7</sup>
	26	5	-120a <sup>4</sup>	-102a <sup>4</sup>	VIII	67	1	-151b <sup>3</sup>	-131b <sup>5</sup>
	27	6	-120b <sup>8</sup>	-102b <sup>7</sup>		68	2	-154a <sup>7</sup>	-134a <sup>7</sup>
	28	7	-121a <sup>6</sup>	-103a <sup>5</sup>		69	3	-158b <sup>1</sup>	-138a <sup>2</sup>
	29	8	-121a <sup>8</sup>	-103a <sup>6</sup>		70	4	-158b <sup>4</sup>	-138a <sup>4</sup>
	30	9	-122b <sup>1</sup>	-104a <sup>5</sup>		5	5	-160a <sup>3</sup>	-139b <sup>1</sup>
			-122b <sup>4</sup>	-104b <sup>1</sup>	AS			-160b <sup>7</sup>	-140a <sup>2</sup>

『現観莊嚴論』の註釈文献について

(14) Vṛttidurbodhaloka

Pek. No.5192 (Ja. 161a<sup>7</sup>-289a<sup>3</sup>), Toh. No.3794 (Ja. 140b<sup>1</sup>-254a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	Ja-176a <sup>1</sup>	Ja-153b <sup>7</sup>	IV	31	1	-223a <sup>5</sup>	-196b <sup>5</sup>
	1	1	-181b <sup>5</sup>	-158b <sup>4</sup>		32	2	-225b <sup>6</sup>	-199a <sup>1</sup>
	2	2	-185b <sup>4</sup>	-162b <sup>6</sup>		33	3	-226b <sup>5</sup>	-199b <sup>6</sup>
	3	3	-194a <sup>3</sup>	-170b <sup>3</sup>		34	4	-227b <sup>8</sup>	-200b <sup>6</sup>
	4	4	-197a <sup>1</sup>	-173a <sup>6</sup>		35	5	-232a <sup>1</sup>	-204b <sup>2</sup>
	5	5	-198a <sup>6</sup>	-174b <sup>2</sup>		36	6	-233a <sup>3</sup>	-205b <sup>3</sup>
	6	6	-198a <sup>7</sup>	-174b <sup>3</sup>		37	7	-235a <sup>1</sup>	-207a <sup>6</sup>
	7	7	-199b <sup>6</sup>	-175b <sup>7</sup>		38	8	-245b <sup>3</sup>	-216b <sup>7</sup>
	8	8	-200a <sup>3</sup>	-176a <sup>4</sup>		39	9	-247b <sup>1</sup>	-218b <sup>3</sup>
	9	9	-202a <sup>7</sup>	-178a <sup>6</sup>		40	10	-247b <sup>2</sup>	-218b <sup>4</sup>
	10	10	-202b <sup>1</sup>	-178a <sup>7</sup>	41	11	-248a <sup>8</sup>	-219b <sup>1</sup>	
II	11	1	-202b <sup>2</sup>	-178b <sup>1</sup>	V	42	1	-249b <sup>3</sup>	-220b <sup>2</sup>
	12	2	-204a <sup>5</sup>	-180a <sup>2</sup>		43	2	-250b <sup>6</sup>	-221b <sup>3</sup>
	13	3	-205a <sup>8</sup>	-181a <sup>2</sup>		44	3	-251a <sup>5</sup>	-222a <sup>1</sup>
	14	4	-207a <sup>7</sup>	-182b <sup>6</sup>		45	4	-252a <sup>2</sup>	-222b <sup>4</sup>
	15	5	-207b <sup>4</sup>	-183a <sup>3</sup>		46	5	-265b <sup>3</sup>	-234b <sup>3</sup>
	16	6	-208a <sup>4</sup>	-183b <sup>3</sup>		47	6	-270b <sup>5</sup>	-239a <sup>3</sup>
	17	7	-208a <sup>6</sup>	-183b <sup>4</sup>		48	7	-273a <sup>2</sup>	-241a <sup>4</sup>
	18	8	-209a <sup>8</sup>	-184b <sup>4</sup>		49	8	-274a <sup>2</sup>	-242a <sup>4</sup>
	19	9	-209a <sup>8</sup>	-184b <sup>4</sup>	VI	50~55	1~6	-274a <sup>6</sup>	-242b <sup>1</sup>
	20	10	-209b <sup>1</sup>	-184b <sup>5</sup>		56~61	7~12	-275b <sup>3</sup>	-243b <sup>3</sup>
21	11	-210a <sup>6</sup>	-185b <sup>1</sup>	62		13	-275b <sup>7</sup>	-243b <sup>6</sup>	
III	22	1	}-211b <sup>3</sup>	}-186b <sup>2</sup>	VII	63	1	-276b <sup>2</sup>	-244b <sup>2</sup>
	23	2				64	2	-277a <sup>5</sup>	-245a <sup>3</sup>
	24	3	}-212b <sup>4</sup>	}-187b <sup>1</sup>		65	3	-277b <sup>6</sup>	-245b <sup>3</sup>
	25	4				66	4	-278a <sup>2</sup>	-245b <sup>6</sup>
	26	5	}-212b <sup>6</sup>	}-187b <sup>3</sup>	VIII	67	1	-279b <sup>5</sup>	-247a <sup>5</sup>
	27	6				68	2	-283b <sup>2</sup>	-250a <sup>3</sup>
	28	7	-213b <sup>7</sup>	-188b <sup>2</sup>		69	3	-283b <sup>4</sup>	-250a <sup>7</sup>
	29	8	-214a <sup>2</sup>	-188b <sup>4</sup>		70	4	-285a <sup>3</sup>	-251b <sup>1</sup>
	30	9	-216a <sup>7</sup>	-190b <sup>3</sup>		5	-288a <sup>6</sup>	-253b <sup>6</sup>	
			-216b <sup>5</sup>	-190b <sup>7</sup>	AS			-289a <sup>2</sup>	-254a <sup>7</sup>

(15) Vṛttipiṇḍartha Pek. No.5193 (Ja.289a<sup>3</sup>–315a<sup>7</sup>), Toh. No.3795 (Ja. 254b<sup>1</sup>–275a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D	
I		0	}Ja–297a <sup>3</sup>	}Ja–260b <sup>7</sup>	IV		31	}–311b <sup>4</sup>	}–272b <sup>2</sup>	
		1					32			2
		2					33			3
		3					34			4
		4					35			5
		5					36			6
		6					37			7
		7					38			8
		8					39			9
		9					40			10
		10					41			11
II		11	}–301b <sup>8</sup>	}–264b <sup>6</sup>	V		42	}–313b <sup>3</sup>	}–274a <sup>4</sup>	
		12					43			2
		13					44			3
		14					45			4
		15					46			5
		16					47			6
		17					48			7
		18					49			8
		19					50–55			1~6
		20				56–61	7~12			
		21				62	13			
III		22	}–304b <sup>5</sup>	}–267a <sup>2</sup>	VI		63	}–314a <sup>1</sup>	}–274b <sup>1</sup>	
		23					64			2
		24					65			3
		25					66			4
		26				VII		67	}–314a <sup>5</sup>	}–274b <sup>3</sup>
		27					68	2		
		28					69	3		
		29					70	4		
		30					5			
						AS				–315a <sup>6</sup>

## 『現観莊嚴論』の註釈文献について

(16) Tīkprasphūtapadā Pek. No.5194 (Ña. 1-128a<sup>5</sup>). Toh. No.3796 (Ña. 1-110a<sup>3</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D	
I		0	$\bar{N}a-44a^3$	$\bar{N}a-38b^2$	IV	31	1	$-77b^6$	$-67a^3$	
	1	1	$-48a^1$	$-41b^7$		32	2	$-78a^1$	$-67a^5$	
	2	2	$-52b^1$	$-46a^1$		33	3	$-78a^2$	$-67a^6$	
	3	3	$-52b^8$	$-46a^4$		34	4	$-81b^4$	$-70b^1$	
	4	4	$-56b^1$	$-49a^3$		35	5	$-82b^3$	$-71a^5$	
	5	5	$-57b^3$	$-50a^2$		36	6	$-84a^6$	$-72b^6$	
	6	6	$-58a^5$	$-50b^3$		37	7	$-84b^7$	$-73a^6$	
	7	7	$-58b^8$	$-51a^5$		38	8	$-86b^1$	$-74b^5$	
	8	8	$-59a^5$	$-51b^2$		39	9	$-87a^5$	$-75b^1$	
	9	9	$-64b^6$	$-56a^7$		40	10	註釈なし	註釈なし	
	10	10	$-65b^1$	$-52a^1$	41	11	$-87b^4$	$-75b^6$		
II	11	1	$-65b^5$	$-57a^3$	V	42	1	$-88a^4$	$-76a^5$	
	12	2	$-66b^1$	$-57b^5$		43	2	$-88a^4$	$-76a^5$	
	13	3	$-66b^5$	$-57b^7$		44	3	$-88a^5$	$-76a^6$	
	14	4	$-67a^4$	$-58a^5$		45	4	$-88a^6$	$-76a^7$	
	15	5	$-67a^7$	$-58b^1$		46	5	$-95a^5$	$-82a^7$	
	16	6	$-67b^3$	$-58b^4$		47	6	$-96b^5$	$-83a^3$	
	17	7	$-71a^8$	$-61b^5$		48	7	$-98a^6$	$-84b^7$	
	18	8	$-71b^2$	$-61b^6$		49	8	$-98b^5$	$-85a^3$	
	19	9	} 註釈なし }	} 註釈なし }	VI	50~55	1~6	$-100b^7$	$-87a^1$	
	20	10				56~61	7~12	$-103a^2$	$-88b^6$	
21	11				62	13	$-103a^8$	$-89a^3$		
III	22	1	} $-72b^8$ }	} $-62b^7$ }	VII	63	1	$-105a^6$	$-90b^4$	
	23	2				64	2	$-106a^7$	$-91b^3$	
	24	3				65	3	$-106b^1$	$-91b^5$	
	25	4				66	4	$-110a^1$	$-94b^4$	
	26	5			VIII	67	1	$-111b^7$	$-96a^5$	
	27	6				68	2	$-118a^5$	$-101b^3$	
	28	7				69	3	$-119b^6$	$-102b^7$	
	29	8				70	4	$-121a^7$	$-104a^5$	
	30	9						5	$-126b^3$	$-108b^5$
								AS		$-128a^4$

118 Kirtikala Pek. No.5197 (Ña. 223a<sup>8</sup>—310a<sup>8</sup>), Toh. No.3799 (Ña. 189b<sup>1</sup>—261a<sup>7</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	$\aleph^a-229a^2$	$\aleph^a-193b^7$	IV	31	1	$-267a^8$	$-225a^7$
	1	1	$-230b^6$	$-195a^6$		32	2	$-269a^8$	$-227a^2$
	2	2	$-234b^3$	$-198b^1$		33	3	$-269b^4$	$-227a^6$
	3	3	$-239a^7$	$-202b^1$		34	4	$-271a^2$	$-228a^7$
	4	4	$-240a^6$	$-203a^5$		35	5	$-276a^2$	$-232b^2$
	5	5	$-241a^1$	$-203b^5$		36	6	$-276b^4$	$-233a^2$
	6	6	$-241a^7$	$-204a^2$		37	7	$-277a^6$	$-233b^2$
	7	7	$-242a^2$	$-204b^4$		38	8	$-282b^5$	$-238a^3$
	8	8	$-243a^3$	$-205b^1$		39	9	$-283b^1$	$-238b^5$
	9	9	$-250a^8$	$-211b^1$		40	10	$-283b^6$	$-239a^2$
	10	10	$-251a^1$	$-211b^7$	41	11	$-284b^1$	$-239b^4$	
II	11	1	$-251b^1$	$-212a^6$	V	42	1	$-285a^2$	$-240a^3$
	12	2	$-252b^6$	$-213a^6$		43	2	$-285b^4$	$-240b^3$
	13	3	$-253b^4$	$-214a^2$		44	3	$-285b^6$	$-240b^5$
	14	4	$-255a^7$	$-215a^7$		45	4	$-286a^2$	$-241a^1$
	15	5	$-255b^4$	$-215b^5$		46	5	$-290b^8$	$-245a^4$
	16	6	$-256a^3$	$-216a^2$		47	6	$-294a^7$	$-248a^1$
	17	7	$-256a^7$	$-216a^4$		48	7	$-294b^8$	$-248b^1$
	18	8	$-257a^7$	$-217a^1$		49	8	$-296a^2$	$-249a^7$
	19	9	$-257b^2$	$-217a^4$	VI	50~55	1~6	} $-296a^6$ }	} $-249b^3$ }
	20	10	$-257b^7$	$-217a^7$		56~61	7~12		
	21	11	$-259a^5$	$-218b^2$		62	13		
III	22	1	} $-259b^3$ }	} $-218b^6$ }	VII	63	1	$-296b^8$	$-250a^3$
	23	2				64	2	$-297a^3$	$-250a^5$
	24	3	} $-260a^1$ }	} $-219a^3$ }		65	3	$-297a^5$	$-250a^7$
	25	4				66	4	$-297b^3$	$-250b^4$
	26	5	} $-261a^6$ }	} $-220a^4$ }	VIII	67	1	$-298a^6$	$-251a^6$
	27	6				68	2	$-302a^1$	$-254a^7$
	28	7	$-262a^8$	$-221a^3$		69	3	$-307b^5$	$-259a^5$
	29	8	$-262b^3$	$-221a^5$		70	4	$-307b^8$	$-259a^7$
	30	9	$-264a^5$	$-222b^3$		5	5	$-309b^1$	$-260b^4$
			$-264a^7$	$-222b^6$	AS			$-310a^6$	$-261a^7$

『現觀莊嚴論』の註釈文献について

(19) Prajñāpradīpāvali Pek. No.5198 (Ta. 1-87b<sup>8</sup>), Toh. No.3800 (Ta. 1-76a<sup>5</sup>)

Cha.	Ser. No.	No.	P	D	Cha.	Ser. No.	No.	P	D
I		0	$Ta-9a^8$	$Ta-8b^2$	IV	31	1	$-48a^4$	$-42a^3$
	1	1	$-11a^3$	$-10a^1$		32	2	$-49a^5$	$-43a^3$
	2	2	$-14a^1$	$-12a^7$		33	3	$-49b^4$	$-43b^2$
	3	3	$-19a^7$	$-16b^6$		34	4	$-51a^4$	$-44b^6$
	4	4	$-20a^7$	$-17b^4$		35	5	$-55a^8$	$-48b^3$
	5	5	$-20b^6$	$-18a^3$		36	6	$-56a^1$	$-49a^4$
	6	6	$-21a^1$	$-18a^6$		37	7	$-56b^6$	$-49b^7$
	7	7	$-21a^8$	$-18b^5$		38	8	$-62a^4$	$-54b^1$
	8	8	$-21b^7$	$-19a^4$		39	9	$-62b^4$	$-54b^7$
	9	9	$-28b^5$	$-25a^3$		40	10	$-63a^1$	$-55a^3$
10	10	$-29a^4$	$-25b^1$	41	11	$-63b^3$	$-55b^3$		
II	11	1	$-29b^2$	$-25b^6$	V	42	1	$-64a^5$	$-56a^3$
	12	2	$-30b^8$	$-27a^2$		43	2	$-64b^7$	$-56b^3$
	13	3	$-32a^5$	$-28a^4$		44	3	$-65a^3$	$-56b^6$
	14	4	$-33b^2$	$-29a^6$		45	4	$-65a^7$	$-57a^2$
	15	5	$-33b^8$	$-29b^3$		46	5	$-70a^3$	$-61a^2$
	16	6	$-34b^8$	$-30b^1$		47	6	$-73a^8$	$-63b^6$
	17	7	$-35b^7$	$-31a^5$		48	7	$-73b^8$	$-64a^5$
	18	8	$-36b^1$	$-31b^6$		49	8	$-74b^4$	$-64b^7$
	19	9	$-36b^6$	$-32a^3$	VI	50~55	1~6	} $-75a^3$ }	} $-65a^5$ }
	20	10	$-37a^2$	$-32a^6$		56~61	7~12		
	21	11	$-38b^1$	$-33b^1$		62	13		
III	22	1	} $-38b^6$ }	} $-33b^5$ }	VII	63	1	$-75b^4$	$-65b^5$
	23	2				64	2	$-75b^8$	$-66a^1$
	24	3	} $-39a^4$ }	} $-34a^2$ }		65	3	$-76a^3$	$-66a^3$
	25	4				66	4	$-76a^8$	$-66a^7$
	26	5	$-39a^8$	$-34a^5$	VIII	67	1	$-76b^4$	$-66b^3$
	27	6	$-40a^7$	$-35a^2$		68	2	$-80a^4$	$-69b^4$
	28	7	$-41a^1$	$-35b^2$		69	3	$-84b^1$	$-73a^6$
	29	8	$-41a^4$	$-35b^4$		70	4	$-84b^5$	$-73b^3$
	30	9	$-42a^5$	$-36b^5$		5	$-86a^7$	$-74b^7$	
			$-42b^1$	$-37a^1$	AS			$-87b^7$	$-76a^5$